

新型コロナウイルス感染症の感染拡大の
影響による消費行動の変化等に関する
研究プロジェクト
令和2年度アンケート調査結果

令和4年4月

消費者庁
新未来創造戦略本部
国際消費者政策研究センター

目次

I 本報告書の位置づけ	2
II 第1回調査	2
1. 概要	2
2. 調査結果	3
(1) 回答者及びその配偶者の属性	3
(2) 非常事態での買物行動	6
(3) 生活変化	8
(4) 買物量の変化	12
(5) 日頃の備え	13
(6) 情報との関わり	17
(7) 生活資源管理	21
(8) 同居家族について	23
III 第2回調査	26
1. 概要	26
(1) 情報介入の概要	26
(2) 調査の概要	27
2. 調査結果	28
(1) 生活変化	28
(2) 日頃の備え	31
(3) 情報との関わり	35
(4) 生活資源管理	38
(5) 同居家族について	44
IV 参考資料	46
1. 第1回アンケート調査票	46
2. 第2回アンケート調査票	56
3. チラシ	63

I 本報告書の位置づけ

「新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響による消費行動の変化等に関する研究」プロジェクト(以下「本研究」という。)は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大による消費行動の変化を解明するとともに、非常時における適切な情報発信の内容及び方法を検証することを目的としている。

本研究では、生活協同組合とくしま生協(以下「とくしま生協」という。)に御協力いただき、組合員を対象に研究に参加いただけるモニターを募集し、チラシによる適切な備蓄に関する情報介入と、介入前後のアンケート調査を実施した。

II 第1回調査

1. 概要

表 I - 1 調査の概要

調査期間	調査票配布:令和3年1月 18 日(月)～令和3年1月 22 日(金) 調査票回収:令和3年1月 25 日(月)～令和3年2月 12 日(金)
調査方法	とくしま生協配送担当者による、調査票の配布・回収 (調査票については、巻末の参考資料を参照)
調査対象者	とくしま生協に加入し、宅配による商品の購入を行っている徳島県内在住の組合員
調査事項	新型コロナウイルス感染症の感染拡大による、消費や生活の変化や食料や日用品等の備蓄状況、普段の生活等
配布者数	60,000 人
有効回答者数	6,948 人

表 I - 2 分析対象データについて

調査名	対象者数	備考
第1回調査	8,988	回答者数
	289	(1-1) 年齢無回答
	280	(1-2) 性別無回答
	91	(1-3) 約半数以上の設問に無回答・誤回答
第2回調査	7,245	回答者数
	41	(2) 約半数以上の設問に無回答・誤回答
除外対象データ	2,040	(1-1)～(2)のいずれかに該当
分析対象データ	6,948	第1回調査の回答者数から除外対象データを減じたもの

2. 調査結果

※計数は、それぞれ四捨五入しているため、合計において一致しない場合がある。

(1) 回答者及びその配偶者の属性

年齢

回答者及びその配偶者の年齢は、回答者では「60 歳代」が 26.8%と最も高く、次いで、「70 歳代」(19.5%)、「50 歳代」(16.7%)であった。また、配偶者では「60 歳代」が 27.3%と最も高く、次いで、「70 歳代」(21.4%)、「40 歳代」(14.7%)であった(図 I-1-1)。

なお、参考として、令和2年度国勢調査から、全国及び徳島県の年齢別人口を示している(図 I-1-2)。

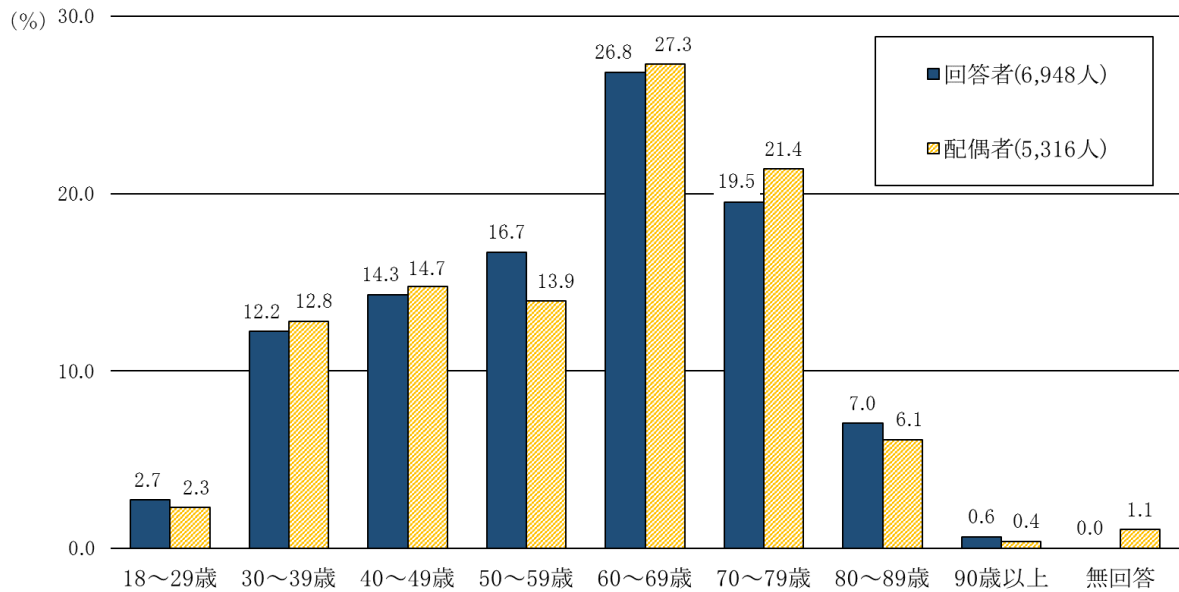


図 I-1-1 年齢

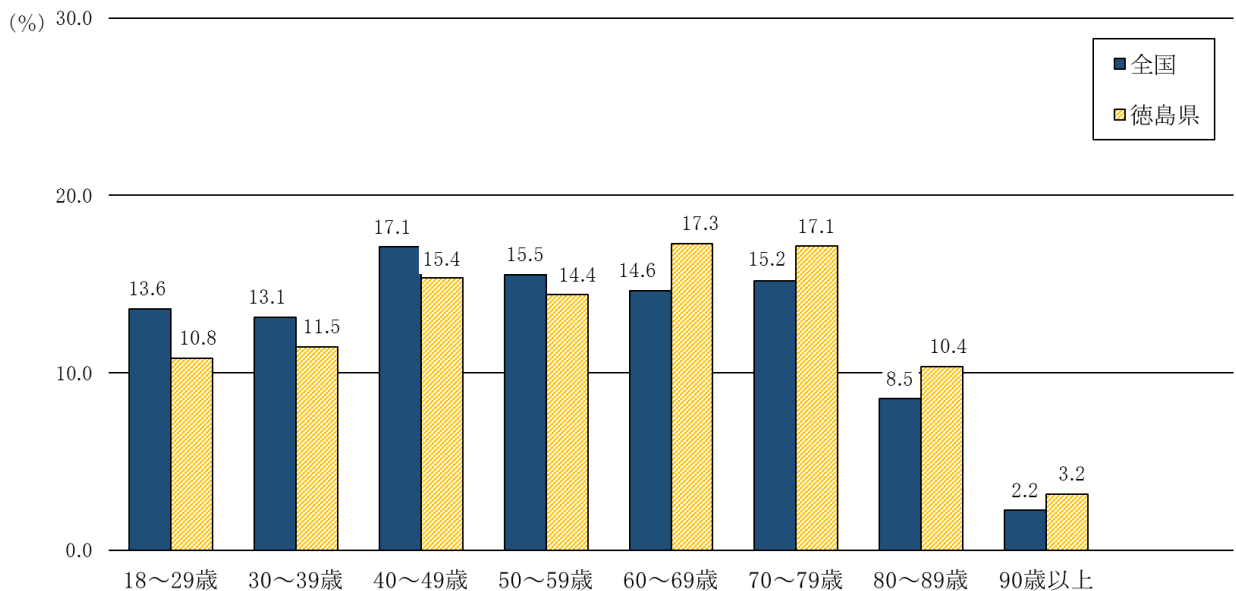
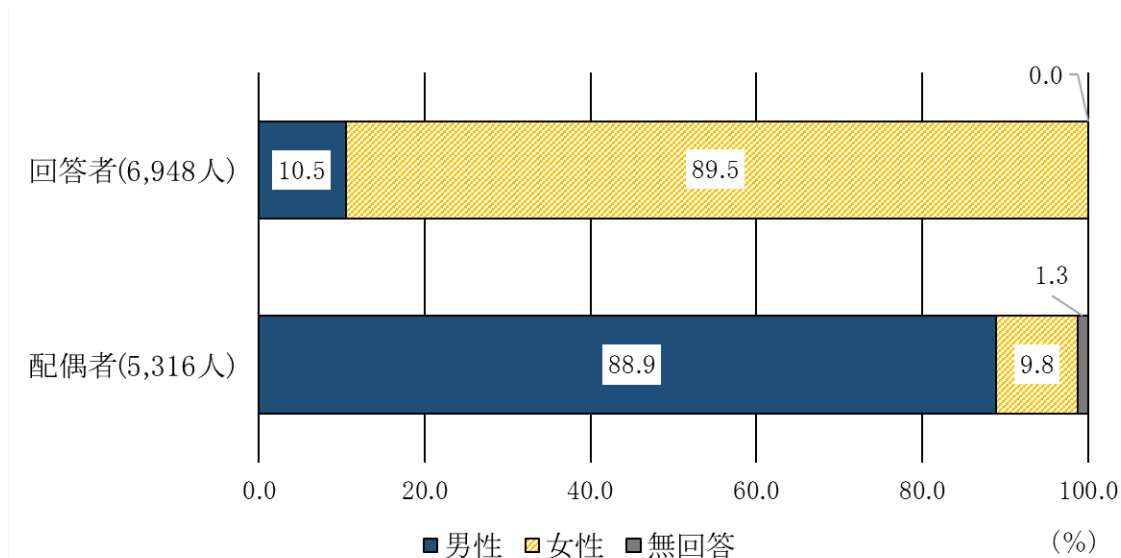


図 I-1-2 全国及び徳島県の年齢別人口(令和2年度国勢調査から)

性別

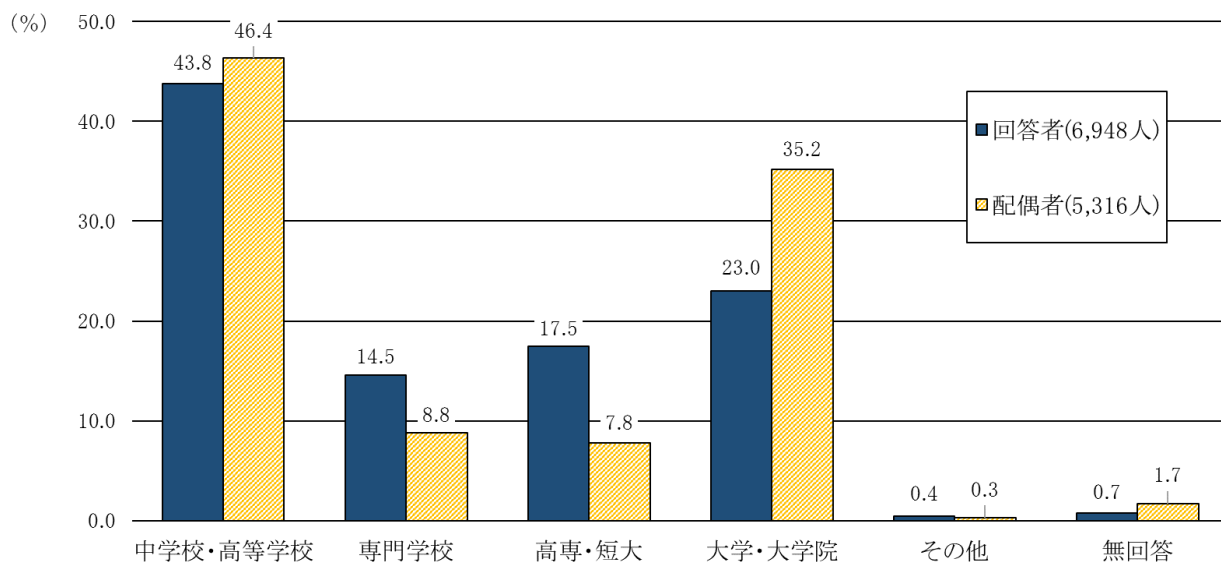
回答者及びその配偶者の性別は、回答者では女性が89.5%と大半を占め、配偶者では男性が88.9%と大半を占めた(図I-2)。



図I-2 性別

最終学歴

回答者及びその配偶者の最終学歴は、回答者では「中学校・高等学校」が43.8%と最も高く、次いで、「大学・大学院」(23.0%)、「高専・短大」(17.5%)であった。また、配偶者では「中学校・高等学校」が46.4%と最も高く、次いで、「大学・大学院」(35.2%)、「専門学校」(8.8%)であった(図I-3)。



図I-3 最終学歴

職業

回答者及びその配偶者の職業は、回答者では「無職・家事」が 42.1%と最も高く、次いで、「フルタイムの勤め人(産休・育休中含む)」(23.5%)、「パート・アルバイト(産休・育休中含む)」(18.2%)であった。また、配偶者では「フルタイムの勤め人(産休・育休中含む)」が 41.7%と最も高く、次いで、「無職・家事」(27.9%)、「自営業・家族従業者」(15.3%)であった(図 I-4)。

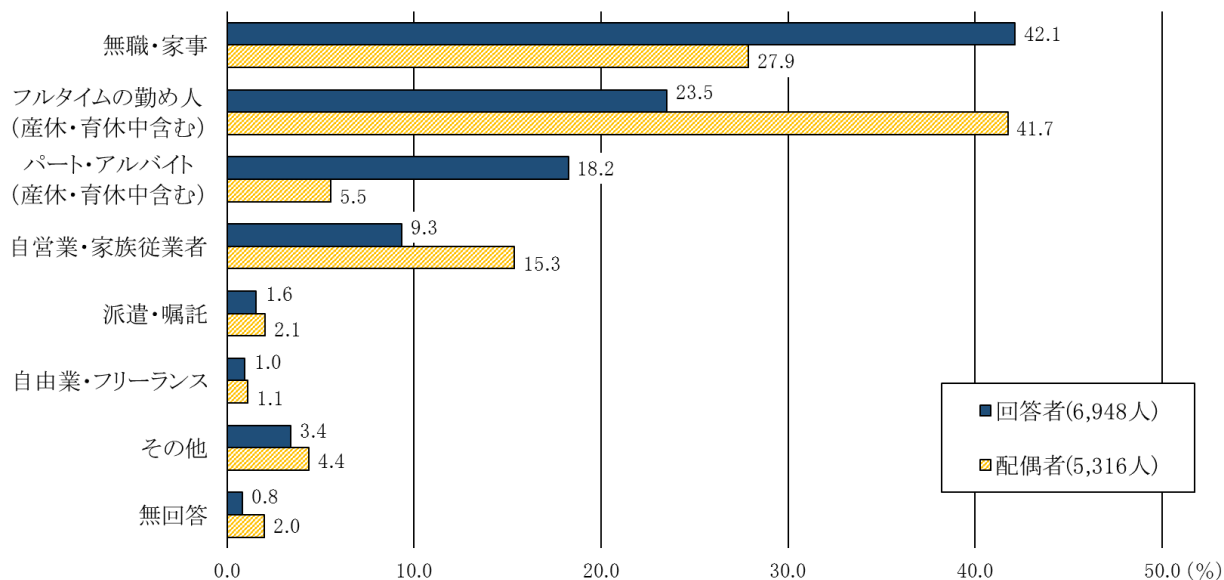


図 I-4 職業

仕事の種類

回答者及びその配偶者の仕事の種類は、回答者では「事務職・営業職」が 22.3%と最も高く、次いで、「専門職・技術職(医師、弁護士、教師等)」(22.0%)、「販売・サービス業」(19.7%)であった。また、配偶者では「技能・労務職」が 18.4%と最も高く、次いで、「専門職・技術職(医師、弁護士、教師等)」(16.7%)、「管理職(課長以上の管理職)」(14.1%)であった(図 I-5)。

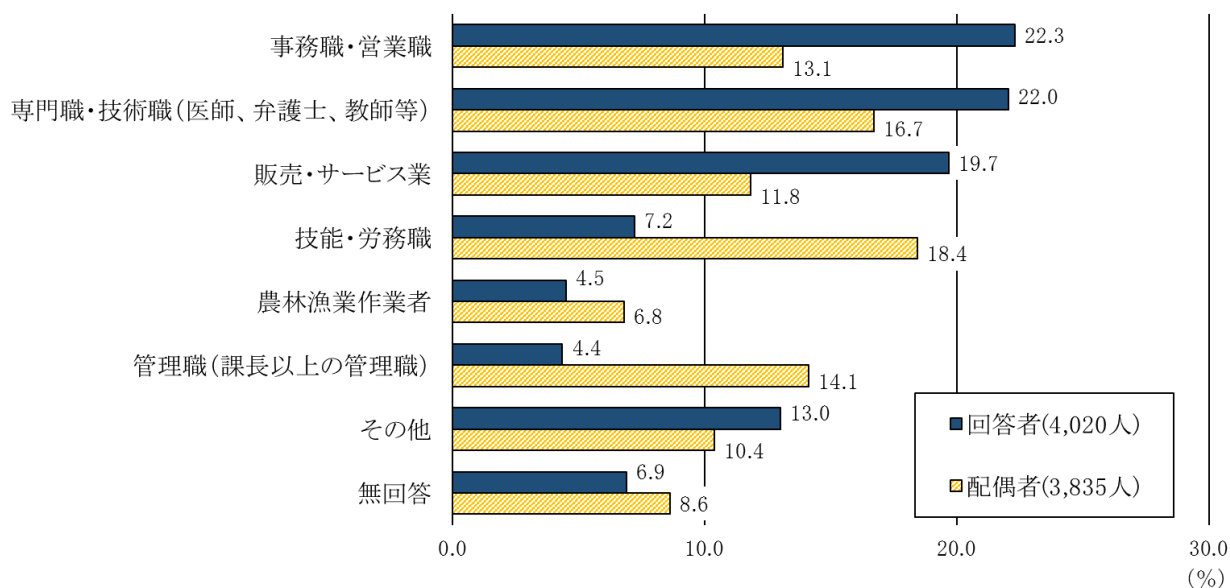


図 I-5 仕事の種類

(2) 非常事態での買物行動

問1 新型コロナウイルスの感染拡大による緊急事態宣言の前後(2020年4～5月)に、マスクなど不足していた物の買物において、あなたは以下のことがどれくらいありましたか(それぞれ1つに○)。

マスクなど不足していた物の買物の経験について、「あった(『何度もあった』+『2・3度あった』+『一度だけあった』)」と回答した人の割合が高い順に見ると、「心配で、手元にあってもさらに買った」が 57.5% (7.9% + 22.9% + 26.7%) と最も高く、次いで、「とにかく手に入れようと、複数の店を渡り歩いた」が 40.5% (8.3% + 16.5% + 15.7%)、「離れて住む家族・親戚や友人の分も手に入れた」が 34.1% (3.5% + 10.5% + 20.0%)であった(図 I - 6)。

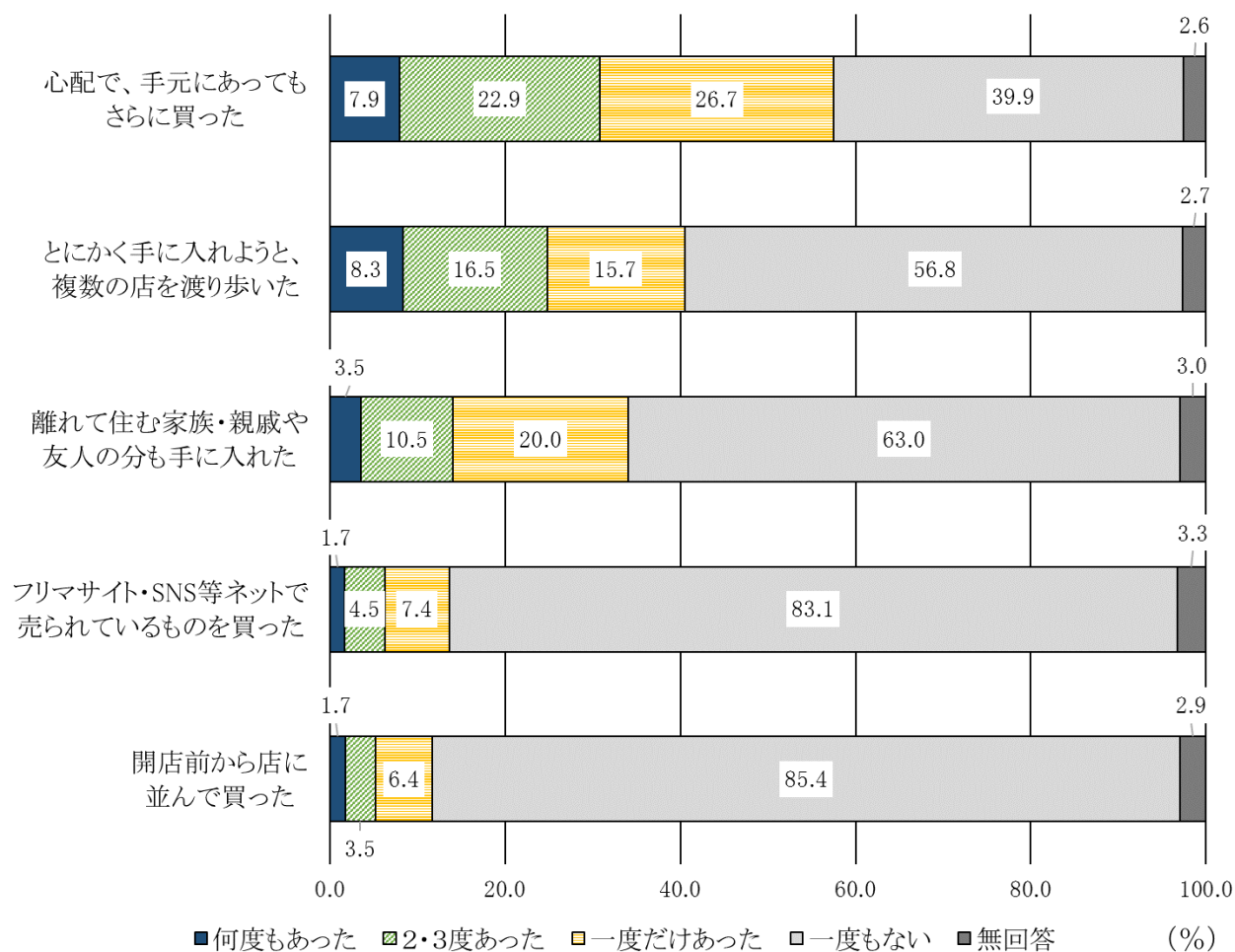


図 I - 6 マスクなど不足していた物の買物の経験【N=6,948】

問2 新型コロナウイルス感染拡大により品薄になった商品(マスクや消毒液、食品など)の購入で、あなたは以下のようなことを経験しましたか(それぞれ1つに○)。

品薄になった商品の購入で経験したことについて、「あった(『何度もあった』+『2・3度あった』+『一度だけあった』)」と回答した人の割合が高い順に見ると、「商品の機能・品質が思っていたよりも悪かった」が 37.1%(2.8%+10.7%+23.6%)と最も高く、次いで、「高額な商品や転売品ばかりで、買えなかった」が 26.1%(9.0%+9.1%+8.0%)、「説明・表示と実際の内容がかなり違っていた」が 14.5%(0.8%+3.7%+10.0%)であった(図 I-7)。

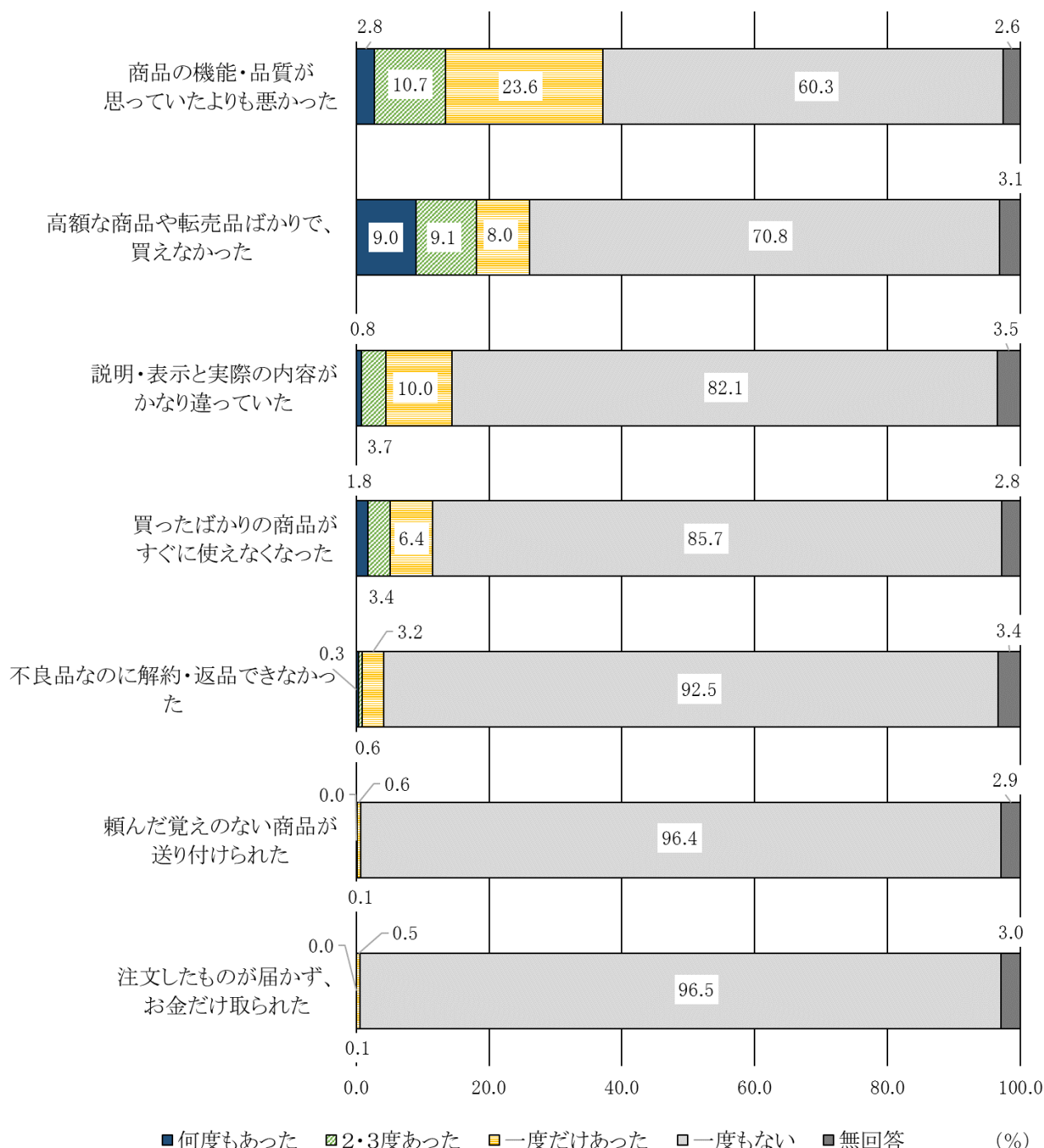


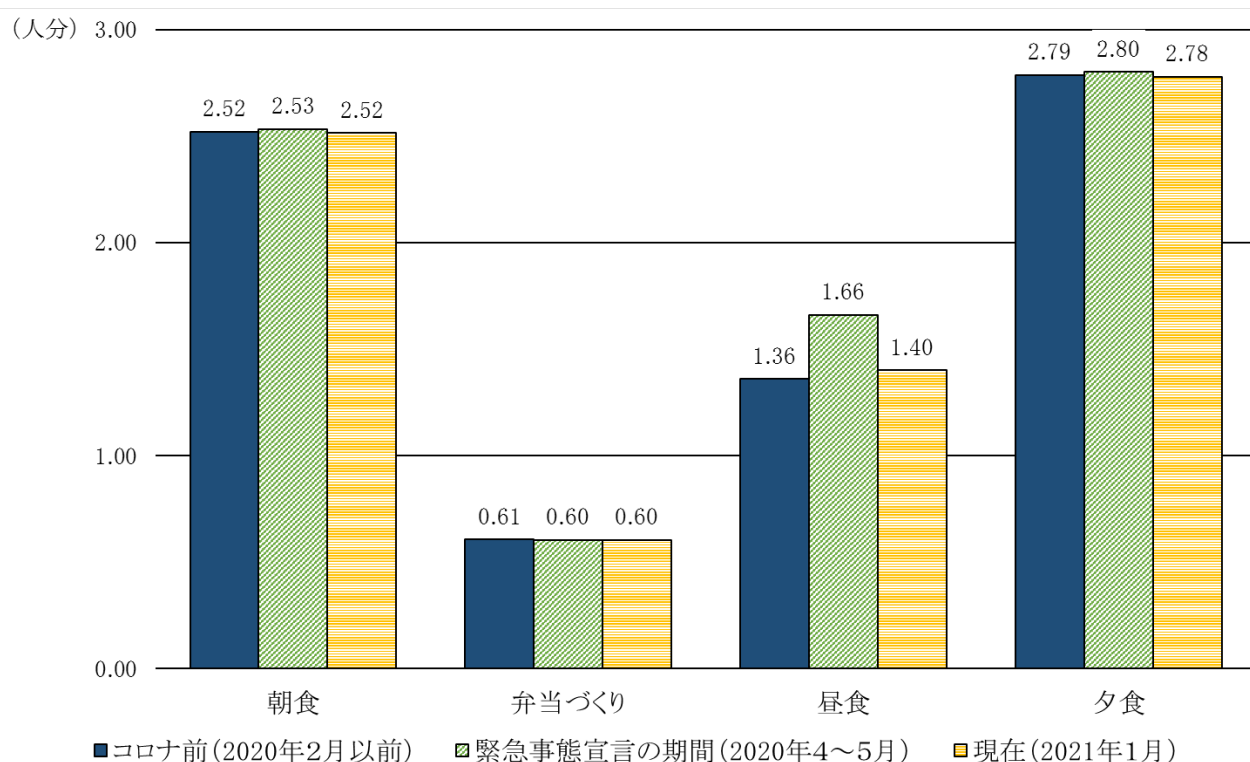
図 I-7 品薄になった商品の購入での経験【N=6,948】

(3) 生活変化

問3 以下の期間では、普段と比べて自宅での食事の支度(出前やテイクアウトも含め)に必要な量がどのように変化しましたか。同居のご家族全体について、平日のだいたいの平均をお答えください(数字を記入)。

- a コロナ前(2020年2月以前)
- b 緊急事態宣言の期間(2020年4～5月)
- c 現在(2021年1月)

新型コロナウイルス感染症の感染拡大前、緊急事態宣言の期間、回答時現在と時点を分け、自宅で何人分の食事の支度をしていたかについて、「朝食」、「弁当づくり」、「夕食」は、いずれの期間も大きな変化は見られなかった一方、「昼食」は、緊急事態宣言の期間に食事の支度量が増えている(図I-8)。



図I-8 自宅での食事の支度量【N=6,039※】

※a～cの設問に対し、全項目に回答したもののみ集計。

問4 食料品と日用品の購入金額のうち、とくしま生協(宅配)で購入した割合はどの程度ですか(それぞれ1つに○)。

a コロナ前(2020年2月以前)

b 緊急事態宣言の間(2020年4～5月)

c 先月(2020年12月)

新型コロナウイルス感染症の感染拡大前、緊急事態宣言の間、先月(2020年12月)と時点を分け、食料品と日用品の購入金額のうちとくしま生協(宅配)で購入した割合は、いずれの時点も「半分以下(2～4割)」が最も高く、緊急事態宣言の間と先月ではコロナ前と比較して「ほぼ全て(8～10割)」、「半分以上(5～7割)」が増加している(図I-9)。

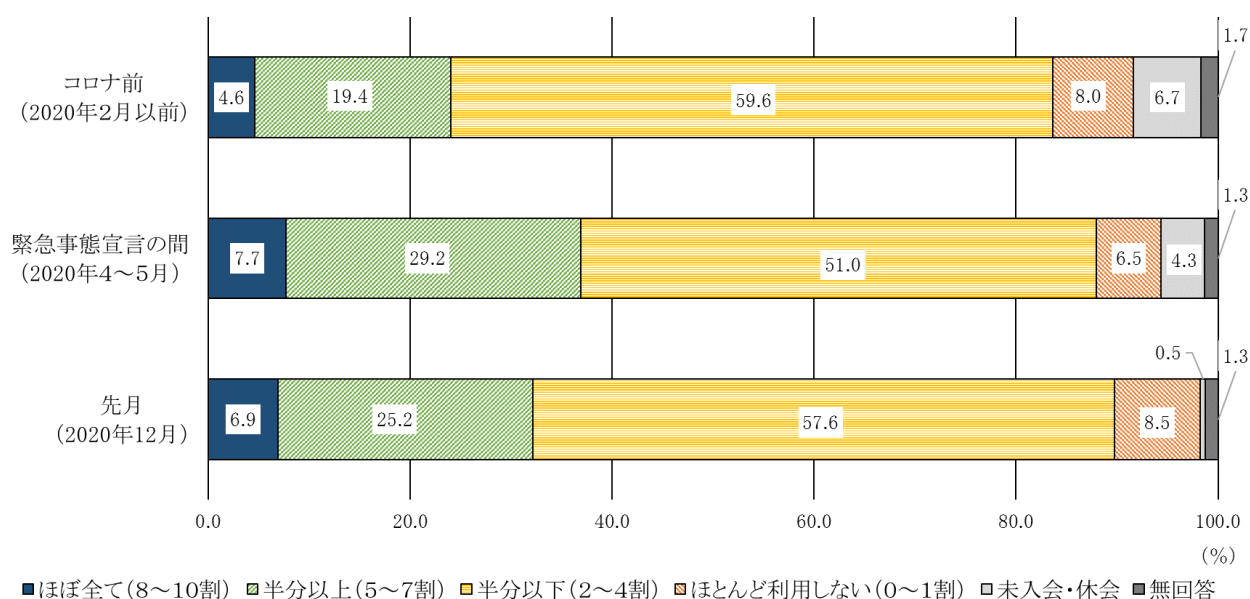
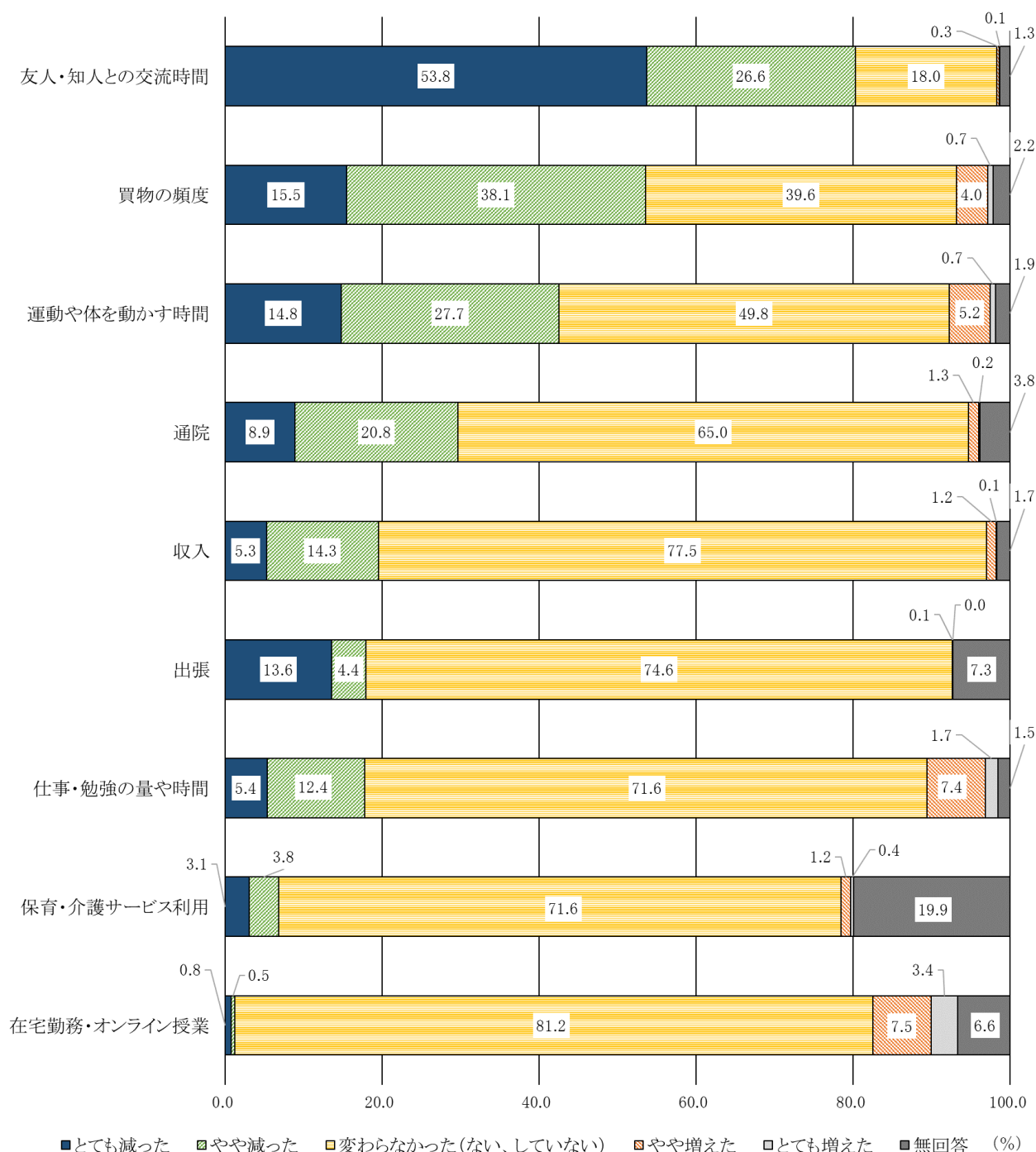


図 I - 9 食料品と日用品の購入金額におけるとくしま生協(宅配)の購入割合【N=6,948】

問5 新型コロナウイルス感染拡大以前(3月以前)と比べて、どのくらい生活が変化しましたか。あなたを含めた同居のご家族全体の、「緊急事態宣言の前後」と「現在」の2時点について、「とても減った」～「とても増えた」から1つずつお選びください。※感染拡大前後のどちらも「ない」「していない」項目は、「変わらなかった」を選んでください。

【感染拡大以前と比べた緊急事態宣言の前後(2020年4～5月)】

上記の期間について、「減った(『とても減った』+『やや減った』)」と回答した人の割合が高い順に見ると、「友人・知人との交流時間」が80.3%(53.8%+26.6%)と最も高く、次いで、「買物の頻度」が53.6%(15.5%+38.1%)、「運動や体を動かす時間」が42.5%(14.8%+27.7%)であった(図I-10)。



図I-10 生活の変化(感染拡大以前と比べた緊急事態宣言の前後(2020年4～5月)【N=6,948】

【感染拡大以前と比べた回答時現在(2021年1月)】

上記の期間について、「減った(『とても減った』+『やや減った』)」と回答した人の割合が高い順に見ると、「友人・知人との交流時間」が79.4%(52.9%+26.5%)と最も高く、次いで、「買物の頻度」が48.2%(12.2%+36.0%)、「運動や体を動かす時間」が39.2%(13.4%+25.8%)であった(図I-11)。

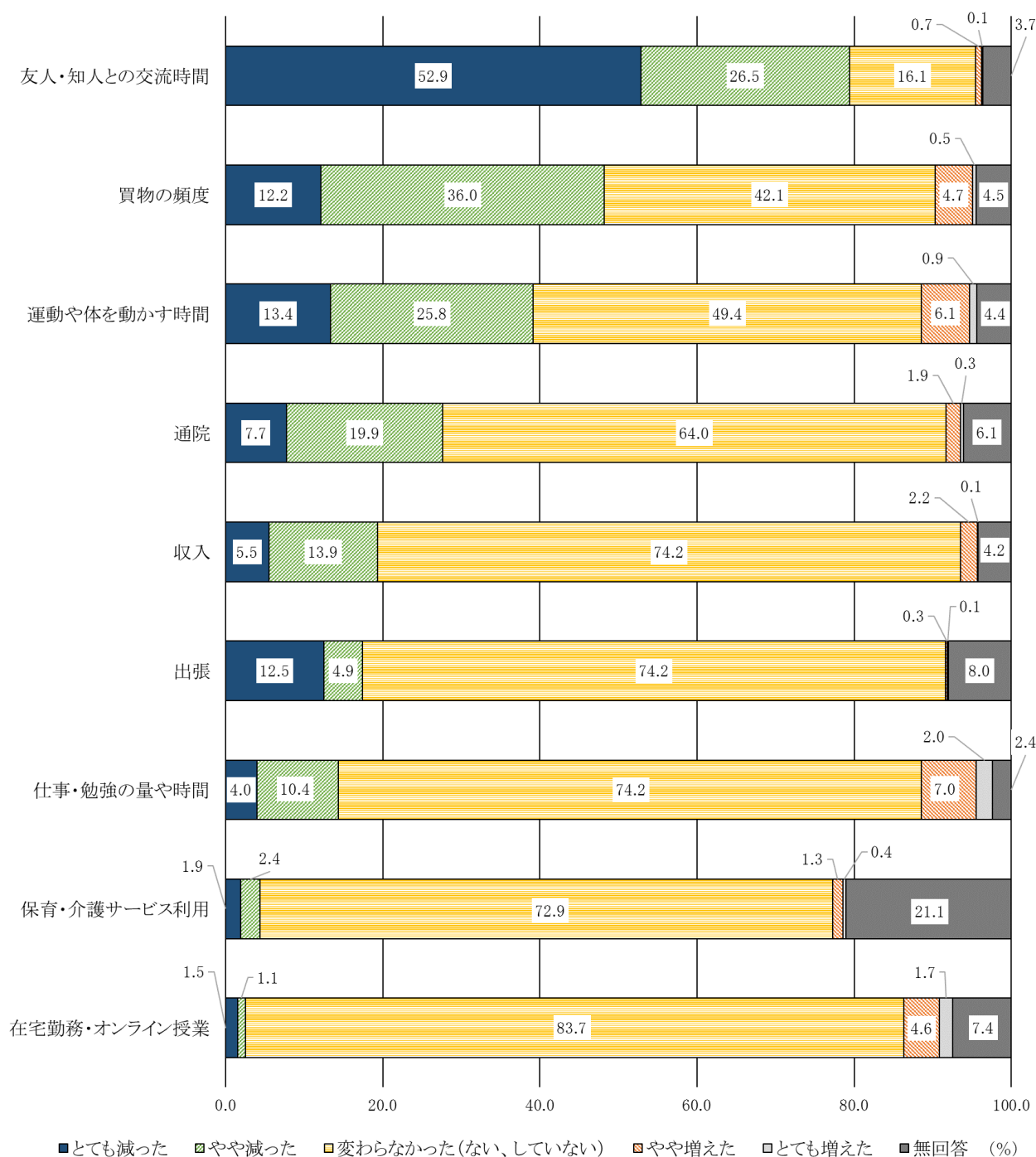


図 I - 11 感染拡大以前と比べた回答時現在(2021年1月)【N=6,948】

(4) 買物量の変化

問6 新型コロナウイルスの感染拡大による緊急事態宣言の前後(2020 年4～5月)に、あなたは以下の品を普段と比べてどのくらい買いましたか(それぞれ1つに○)。※普段から買わないものは「変わらなかった」を選んでください。

普段と比べた買物量の変化について、「買えなかった(『買えなかった』+『少ししか買えなかった』)」と回答した人の割合が高い順に見ると、「マスク」が 29.8%(13.2%+16.6%)と最も高く、次いで、「除菌・消毒剤」が 27.8%(11.8%+16.0%)、「小麦粉、ホットケーキミックス」が 16.5%(5.6%+10.9%)であった(図 I -12)。

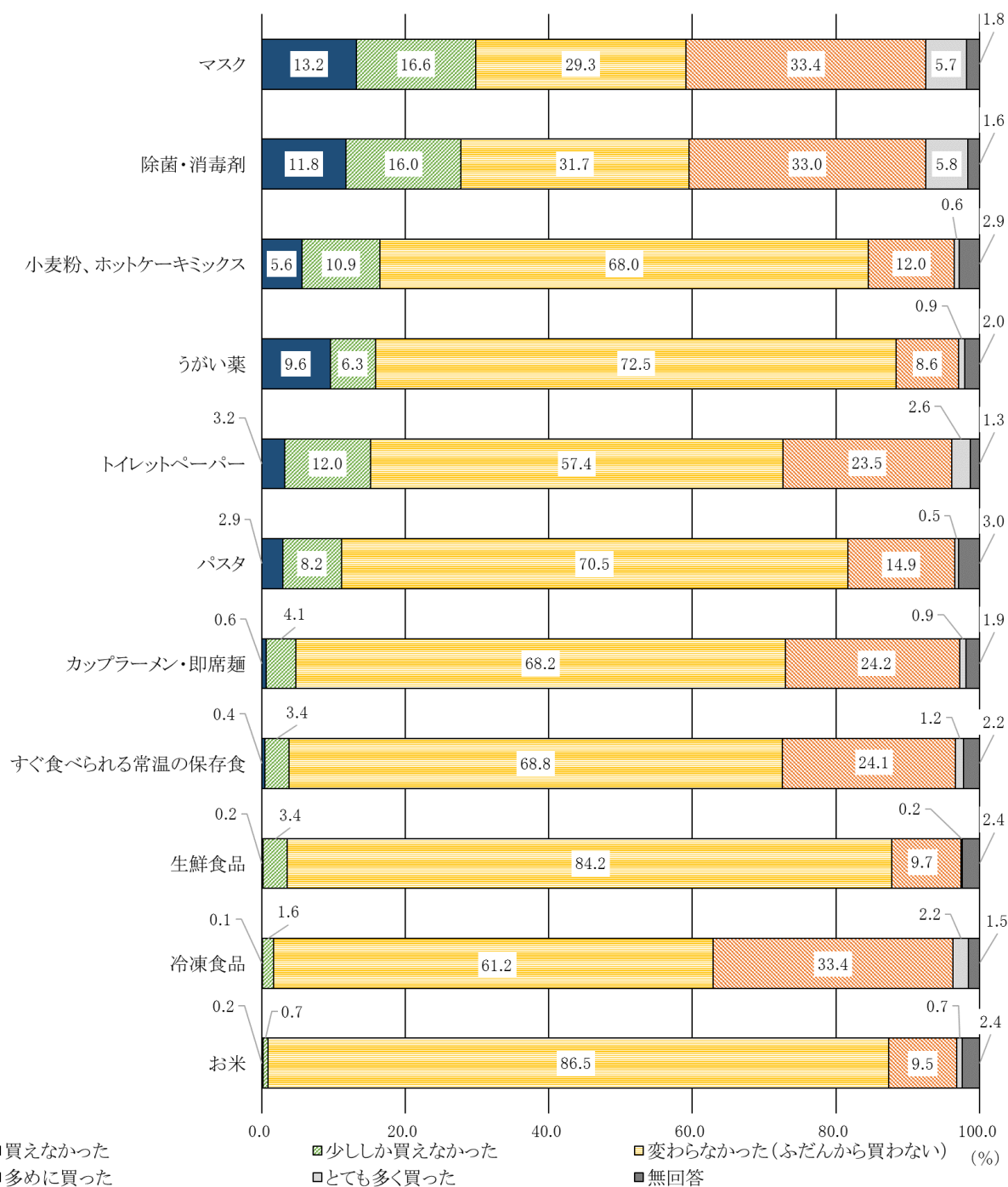


図 I -12 買物量の変化【N=6,948】

(5) 日頃の備え

問7 食料品・日用品の購入で、とくしま生協(宅配)以外に利用するのはどれですか(○はいくつでも)。

問7-1 上でお答えになったうち、最も利用している場所はどこですか。○をつけた中から1つお選びください。

食料品・日用品の購入で、とくしま生協(宅配)以外に利用する場所について、「スーパーマーケット(生協以外)・ショッピングモール」が 89.6%と最も高く、次いで、「ドラッグストア」(72.7%)、「コンビニエンスストア」(35.3%)であった。また、その中で最も利用している場所は、「スーパーマーケット(生協以外)・ショッピングモール」が 75.0%と最も高く、次いで、「ドラッグストア」(8.1%)、「とくしま生協のスーパーマーケット」(2.6%)であった(図 I-13)。

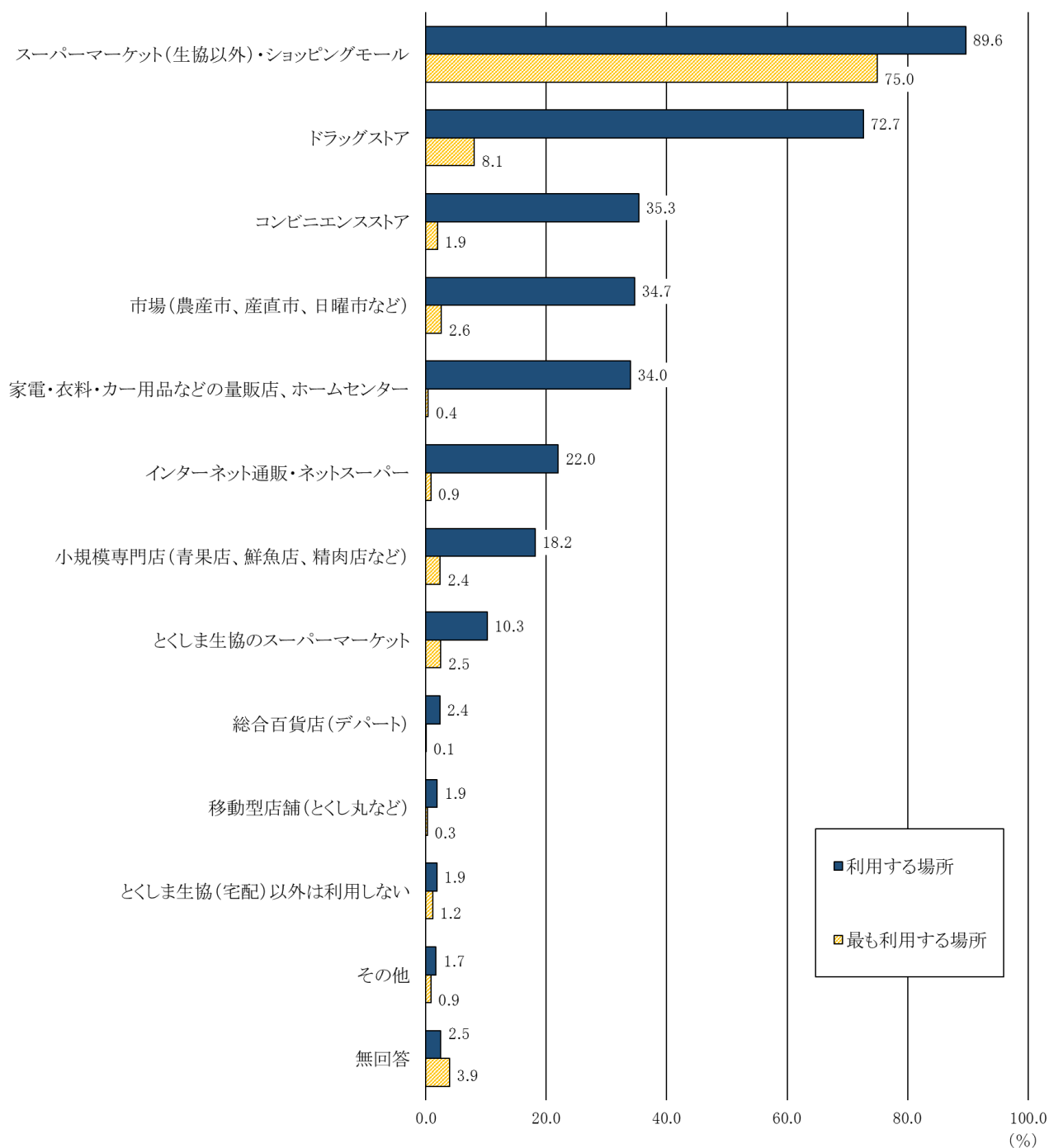


図 I-13 食料品・日用品の購入場所【N=6,948】

問8 現在、ご自宅に以下の予備がどのくらいありますか。たった今、生活必需品が手に入らない状況になったと
 考えて、同居のご家族全体でどのくらいあるかお答えください(それぞれ1つに○)。

生活必需品の備蓄状況について、「4日分以上(『2週間分以上』+『1～2週間分』+『4日～1週間分』)」と回答した人の割合が高い順に見ると、「トイレtpペーパー」が 95.5% (71.8%+17.6%+6.0%)と最も高く、次いで、「マスク」が 94.8% (77.2%+11.8%+5.8%)、「衛生用品(石鹸・歯磨き粉など)」が 94.2% (74.8%+14.5%+5.0%)であった(図 I -14)。

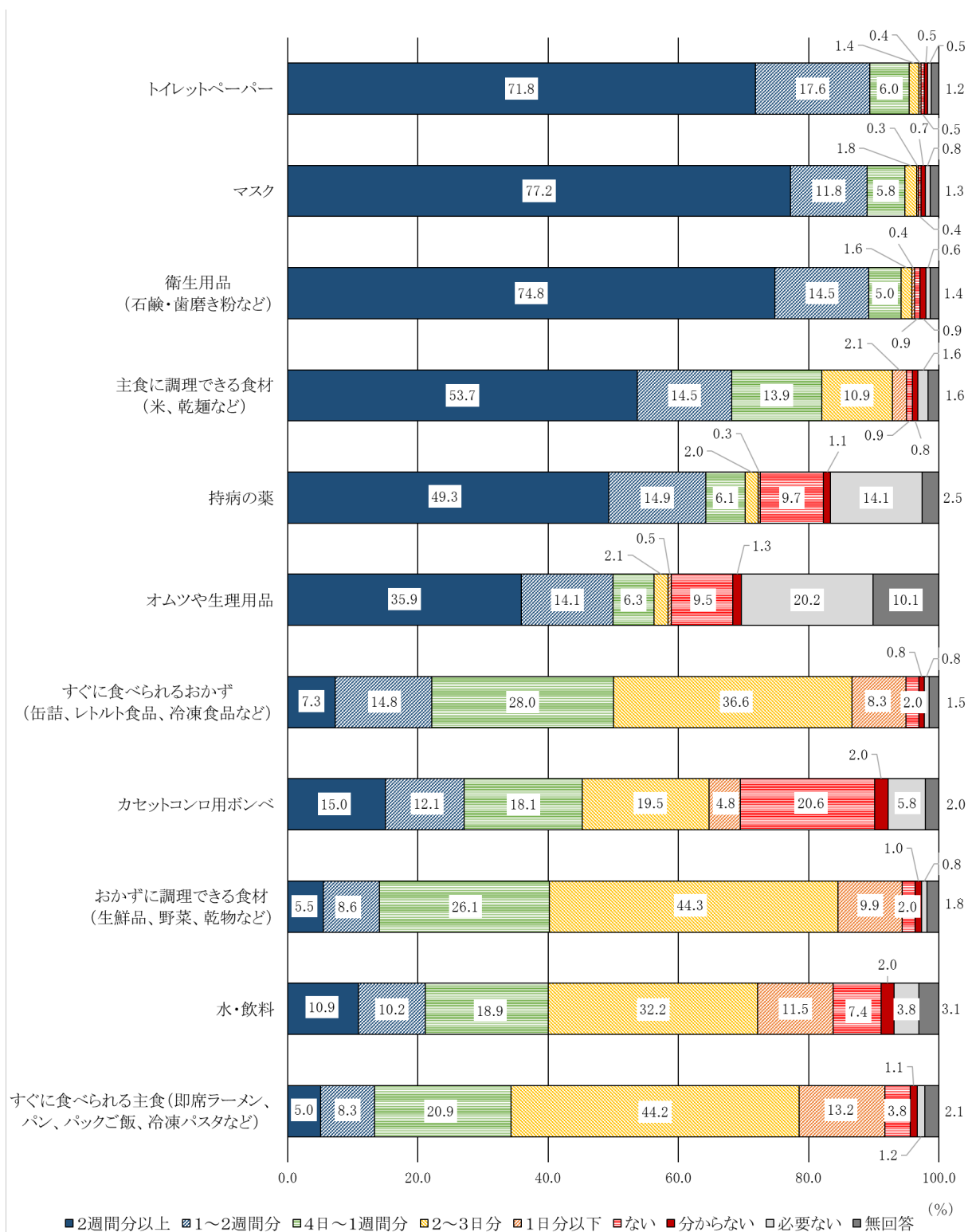


図 I -14 生活必需品の備蓄状況【N=6,948】

問9 ご自宅で災害用に、以下のものを備えていますか(○はいくつでも)。

自宅で災害用に備えているものは、「懐中電灯」が 87.6%と最も高く、次いで、「乾電池・バッテリー」(65.9%)、「非常用持ち出し袋」(56.3%)であった(図 I -15)。

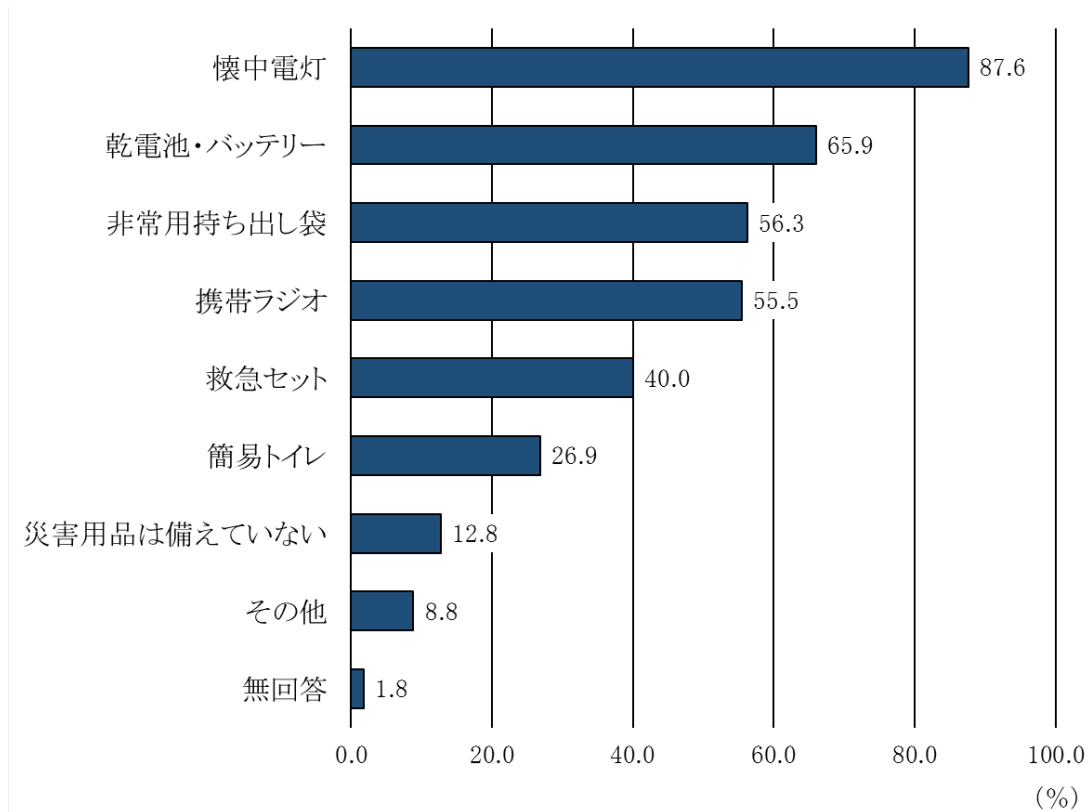


図 I -15 災害への備え【N=6,948】

問 10 食品や日用品の備蓄についてお聞きます。以下の内容について、あなたはどれくらい当てはまりますか
(それぞれ1つに○)。

食品や日用品の備蓄について、「当てはまる(『当てはまる』+『やや当てはまる』)」と回答した人の割合が高い順に見ると、「期限の確認や、買替えが面倒で続かない」が 52.9%(16.5%+36.4%)と最も高く、次いで、「必要な分量がどれだけなのか分からない」が 46.2%(10.3%+35.9%)、「種類が多く、何を備蓄したらよいか分からない」が 38.4%(7.6%+30.9%)であった(図 I-16)。

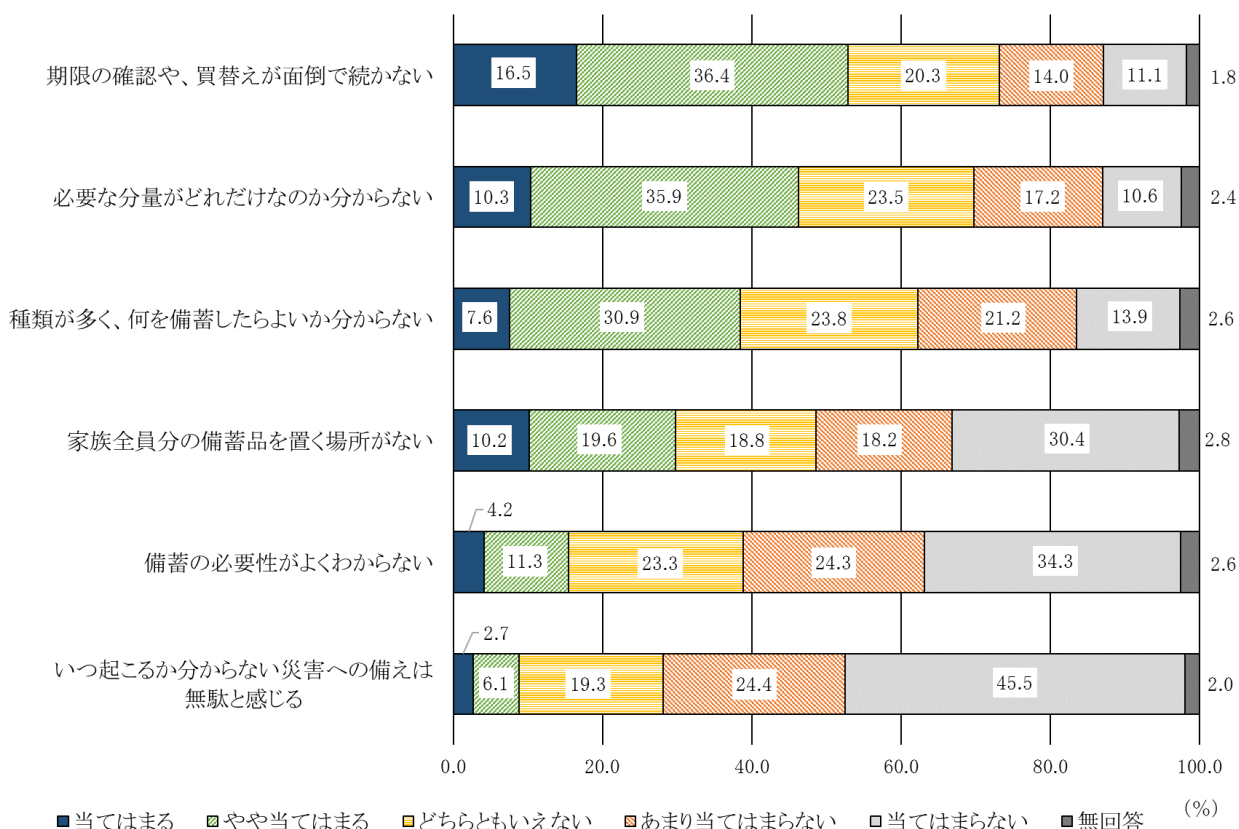


図 I-16 食品や日用品の備蓄についての意識【N=6,948】

(6) 情報との関わり

問 11 普段、生活に身近な情報との関わりで、以下のことをどの程度していますか(それぞれ1つに○)。

生活に身近な情報への関わりについて、「する(『いつもする』+『よくする』)」と回答した人の割合が高い順に見ると、「ウまい話を聞いたら、疑ってかかる」が 64.7% (29.6%+35.2%)と最も高く、次いで、「いつの情報なのか、日時を確認する」が 44.6% (14.0%+30.6%)、「信じてよい情報かどうか、情報源を確認する」が 29.8% (6.3%+23.6%)であった(図 I-17)。

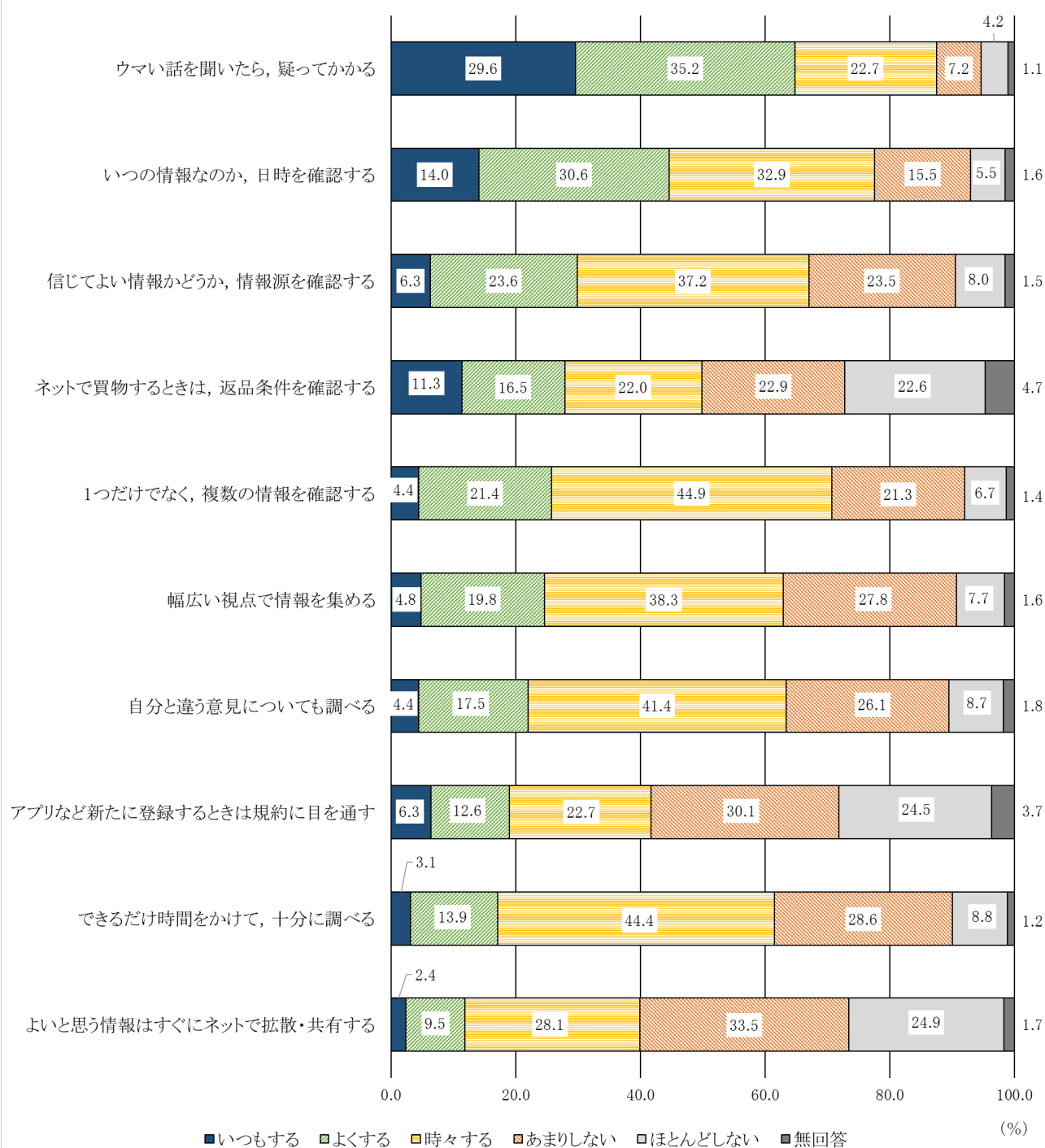


図 I-17 生活に身近な情報への関わり方【N=6,948】

問 12 あなたの普段の行動について、以下の項目がどの程度当てはまると思いますか。当てはまるものを直感でお選びください(それぞれ1つに○)。

普段の行動について、「当てはまる(『当てはまる』+『やや当てはまる』)」と回答した人の割合が高い順に見ると、「マスコミで取り上げられた商品はすぐ試したくなる」が 26.5% (3.6%+22.9%)と最も高く、次いで、「無料だったり返金保証があるならいろいろ試してみたい」が 17.5% (3.4%+14.1%)、「専門家や肩書がすごい人の意見には従ってしまう」が 14.7% (1.2%+13.5%)であった(図 I -18)。

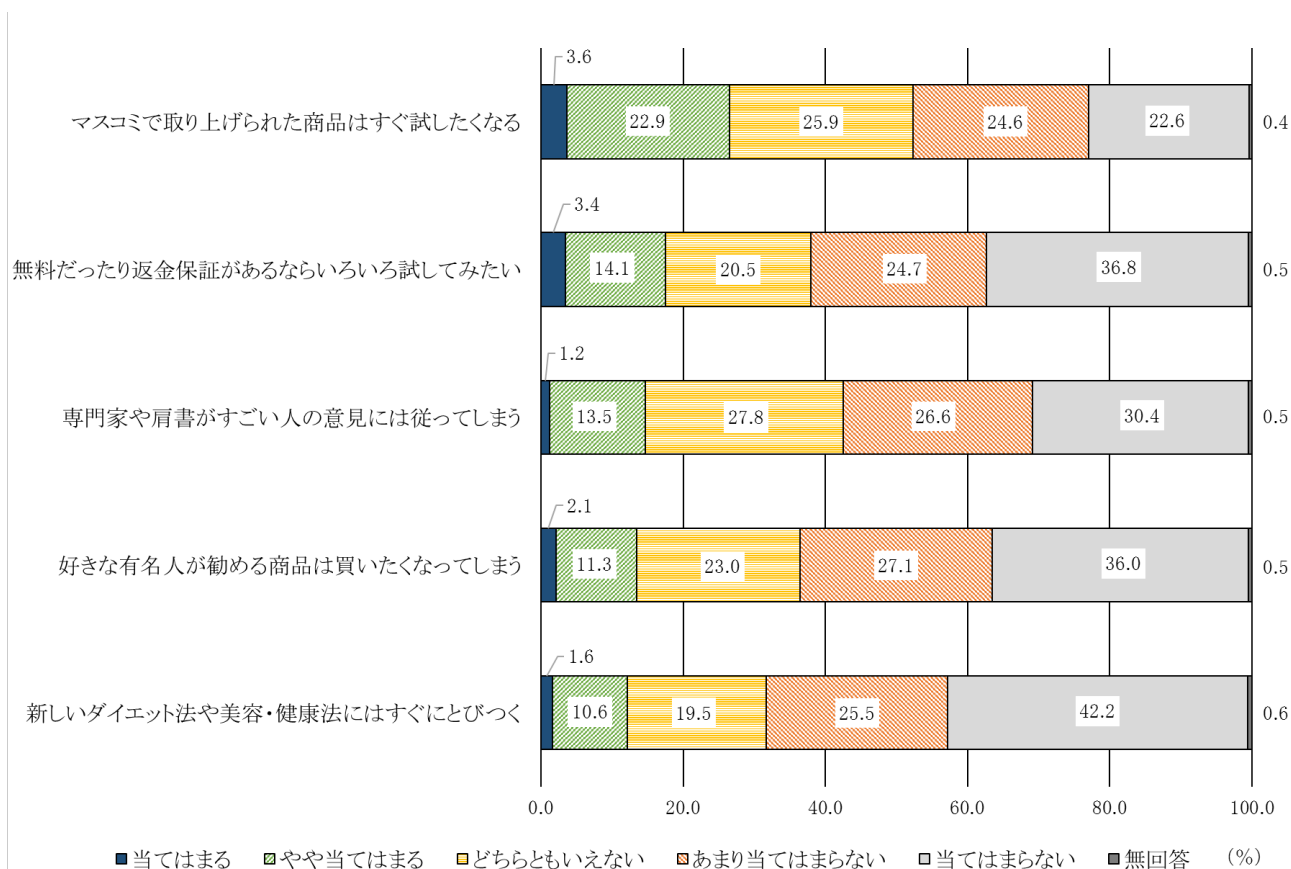


図 I -18 普段の行動【N=6,948】

問 13 あなたは、新型コロナウイルスの感染について、以下のどの情報を参考にしていますか(○はいくつでも)。

問 13-1 上で答えになったうち、あなたが最も重視している情報はどれですか。○をつけた中から1つお選びください。

新型コロナウイルス感染症の感染について、参考にしている情報は、「新聞・テレビ等の報道」が 95.5%と最も高く、次いで、「ネットニュースサイト」(51.1%)、「友人・知人・家族」(47.1%)であった。また、そのうちで最も重視している情報は、「新聞・テレビ等の報道」が 77.5%と最も高く、次いで、「ネットニュースサイト」(8.9%)、「行政による情報(広報誌、ポスター、ウェブサイト等)」(6.2%)であった(図 I-19)。

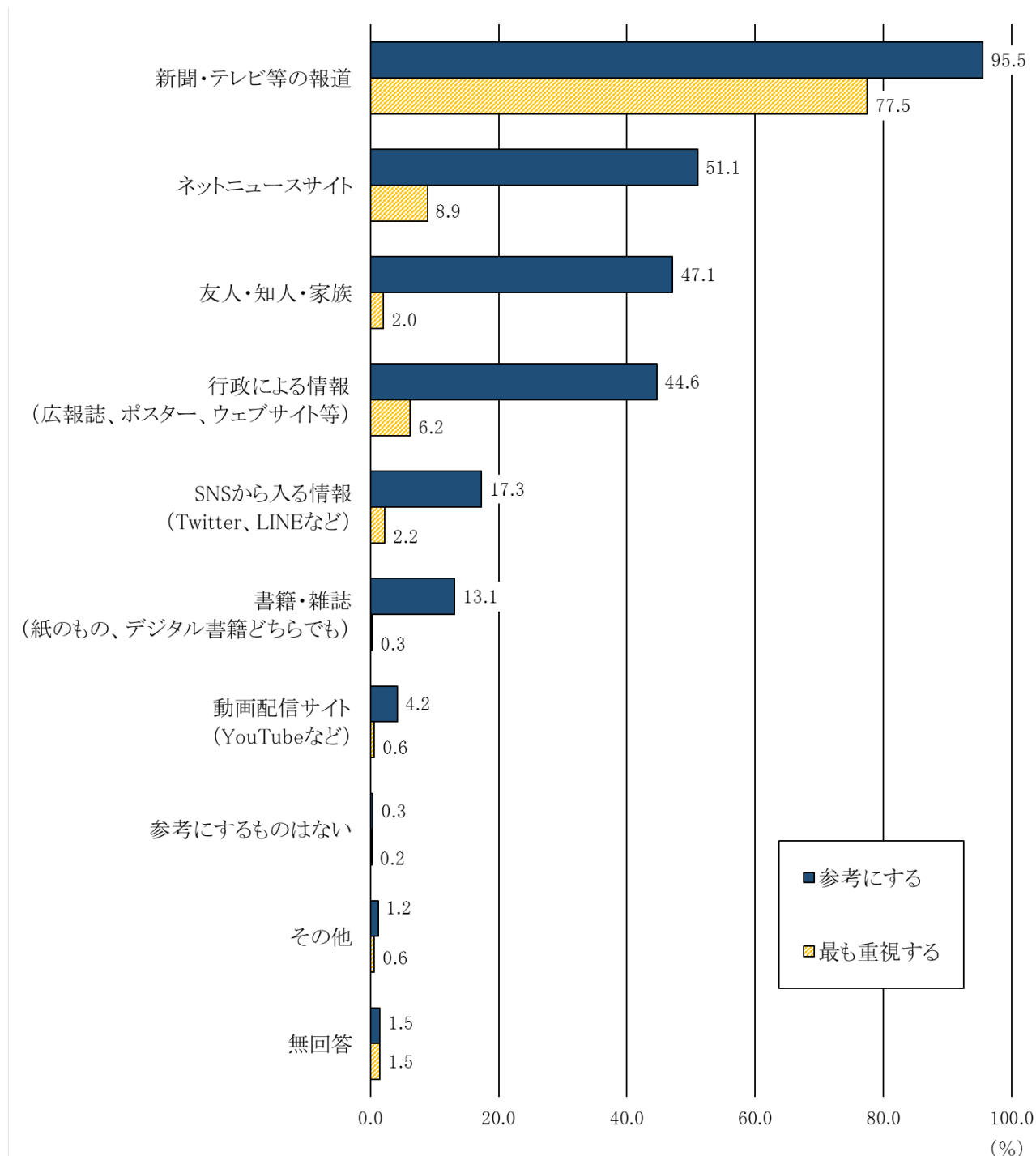


図 I-19 どの情報を参考にしているか【N=6,948】

問 14 現在、あなたは新型コロナウイルス感染拡大について、どのようなことをどれくらい不安に思いますか(それぞれ1つに○)。

新型コロナウイルス感染症の感染拡大について不安に思うことは、「当てはまる(『当てはまる』+『やや当てはまる』)」と回答した人の割合が高い順に見ると、「家族の健康や感染したときのこと」が 93.9% (77.3%+16.6%)と最も高く、次いで、「自分の健康や感染したときのこと」が 93.7% (75.1%+18.6%)、「感染拡大がいつ収まるのか分からないこと」が 92.4% (69.6%+22.7%)であった(図 I - 20)。

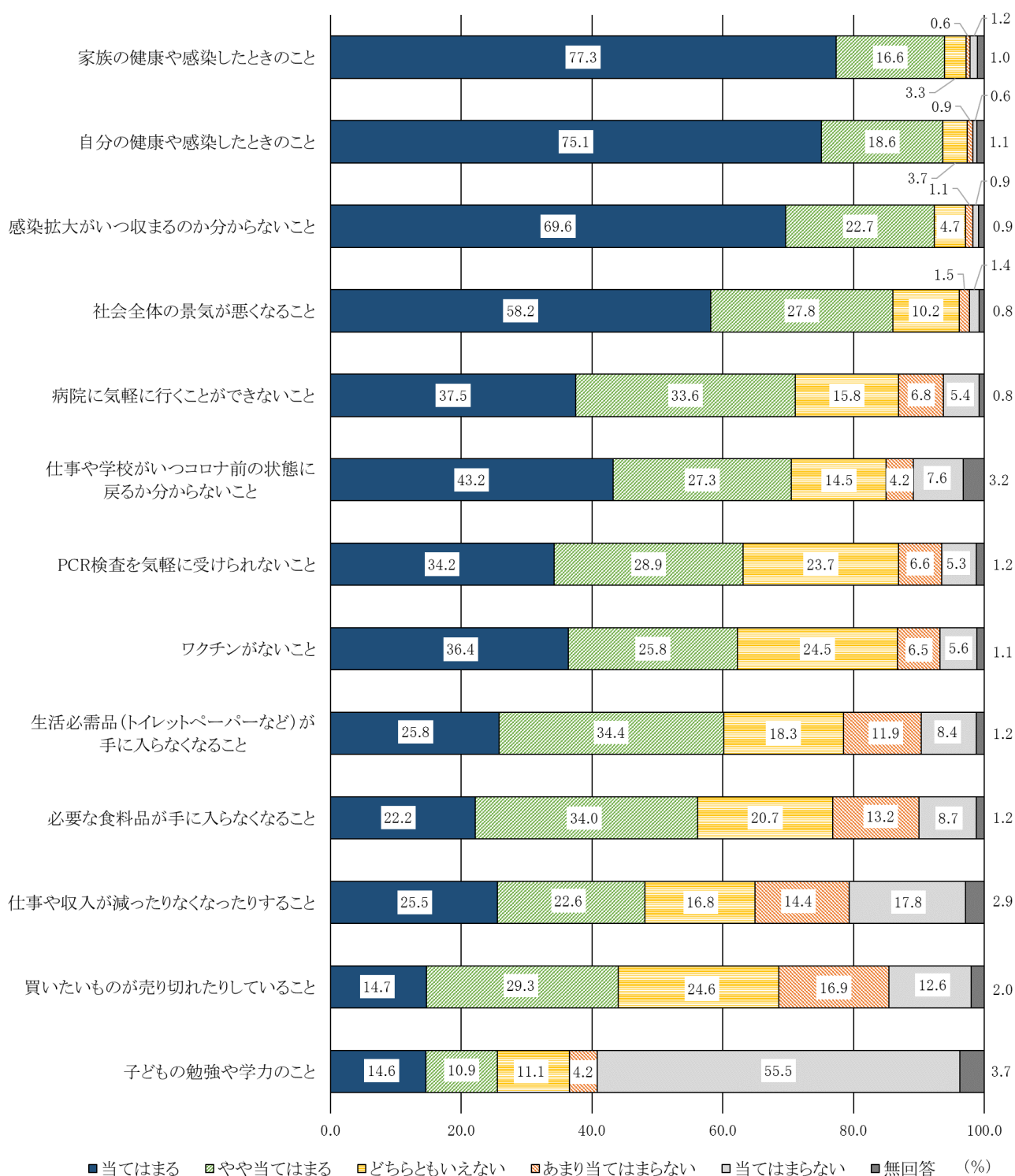


図 I - 20 不安に思うこと【N=6,948】

(7) 生活資源管理

問 15 収支や金銭の管理についてお聞きます。以下の内容について、あなたはどれくらい当てはまりますか(それぞれ1つに○)。

収支や金銭の管理について、「当てはまる(『当てはまる』+『やや当てはまる』)」と回答した人の割合が高い順に見ると、「財布の中に今いくら入っているか、だいたい正確に答えられる」が 77.6% (30.5%+47.1%)と最も高く、次いで、「急に収入が3カ月くらいなくなっても、貯蓄で対応できる」が 63.6% (37.8%+25.8%)、「ひと月の実際の支出は、記録をみれば分かる」が 57.8% (29.6%+28.2%)であった(図 I - 21)。

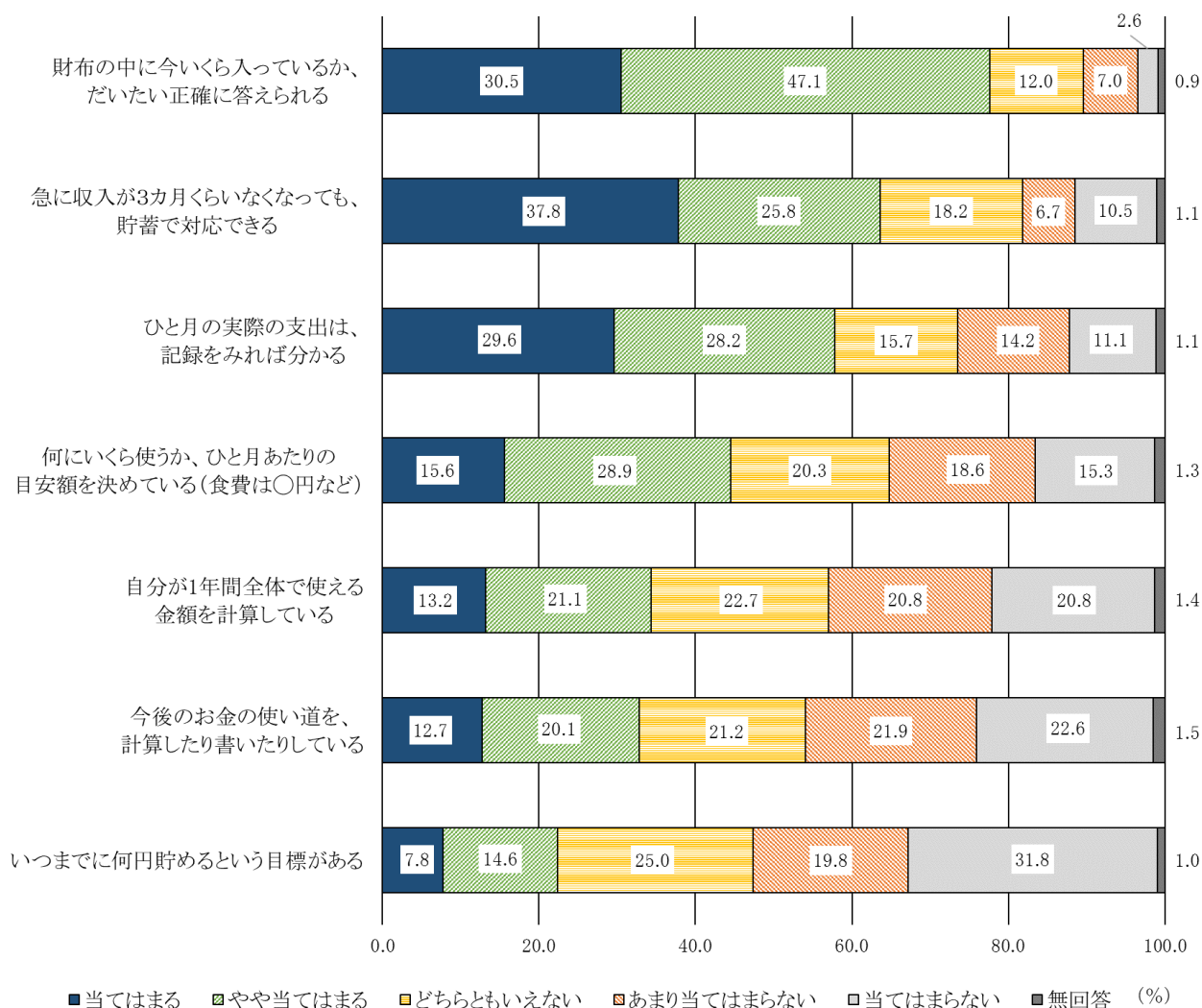


図 I - 21 収支や金銭の管理【N=6,948】

問 16 ご自分の部屋や住まいについてお聞きます。以下の内容について、あなたはどれくらい当てはまりますか(それぞれ1つに○)。

部屋や住まいの状況について、「当てはまる(『当てはまる』+『やや当てはまる』)」と回答した人の割合が高い順に見ると、「使わないのに捨てられないものがたくさんある」が 56.3%(17.7%+38.5%)と最も高く、次いで、「棚や引き出しに物がぎっしり詰まっている」が 44.3%(11.5%+32.8%)、「床の上に直接置いているものがたくさんある」が 32.0%(7.6%+24.5%)であった(図 I-22)。

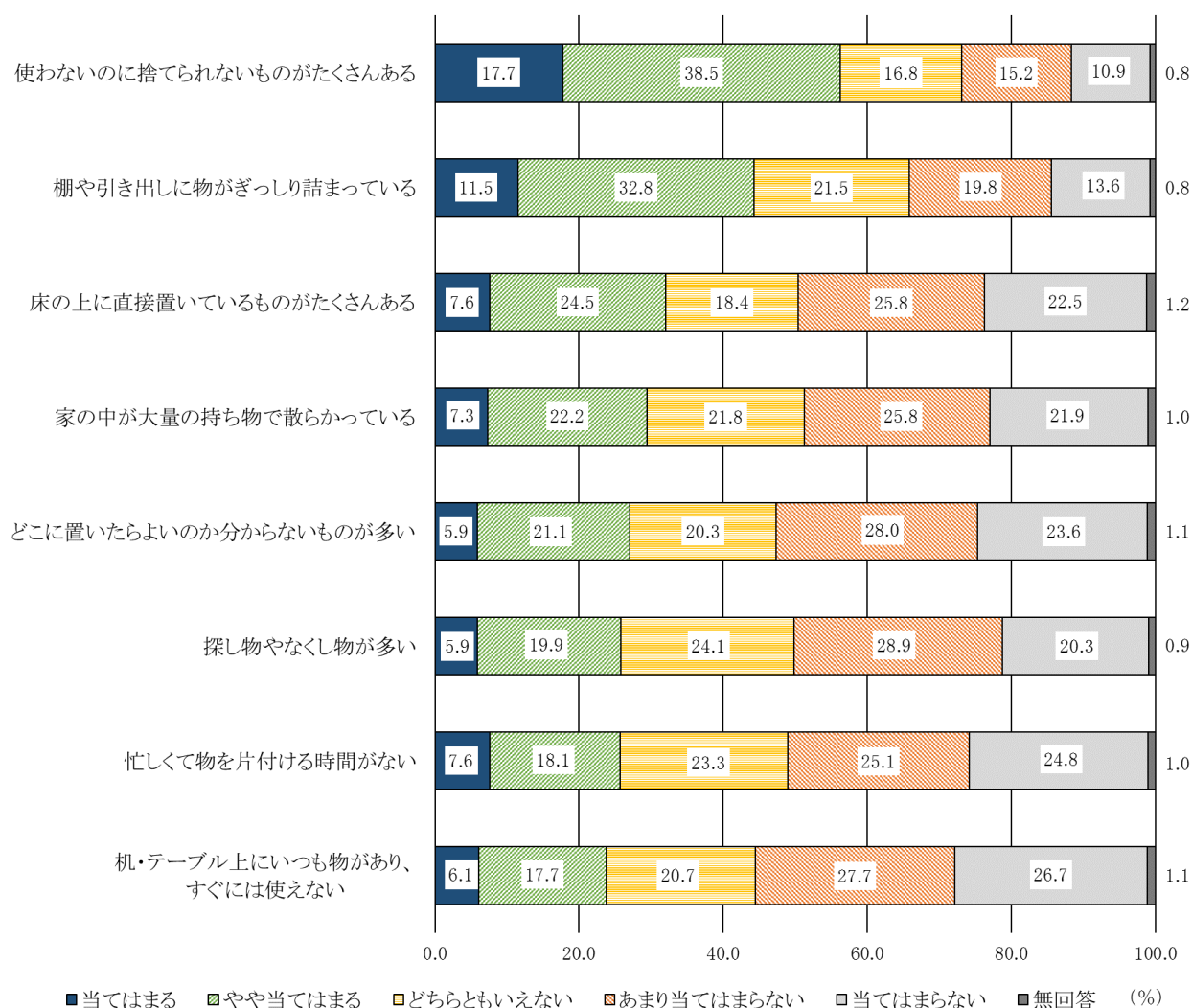


図 I-22 部屋や住まいの状況【N=6,948】

(8) 同居家族について

問 17 同居しているご家族についてお聞きます(2021 年1月1日現在)。

- a. 何人で住んでいますか。あなたを含めて全員で
- b. 同居家族の中で、いちばん若い方※の年齢 ※あなたご自身も含めてください。
- c. どなたと一緒に住んでいますか。当てはまる人を、全てお選びください(○はいくつでも)。
※単身世帯の方は、「当てはまるものはない(一人暮らし)」に○を付けてください。

同居人数について、「2人」が 35.1%と最も高く、次いで、「3人」(23.2%)、「4人」(17.3%)であった。なお、平均は 2.94 人であった(図 I-23)。

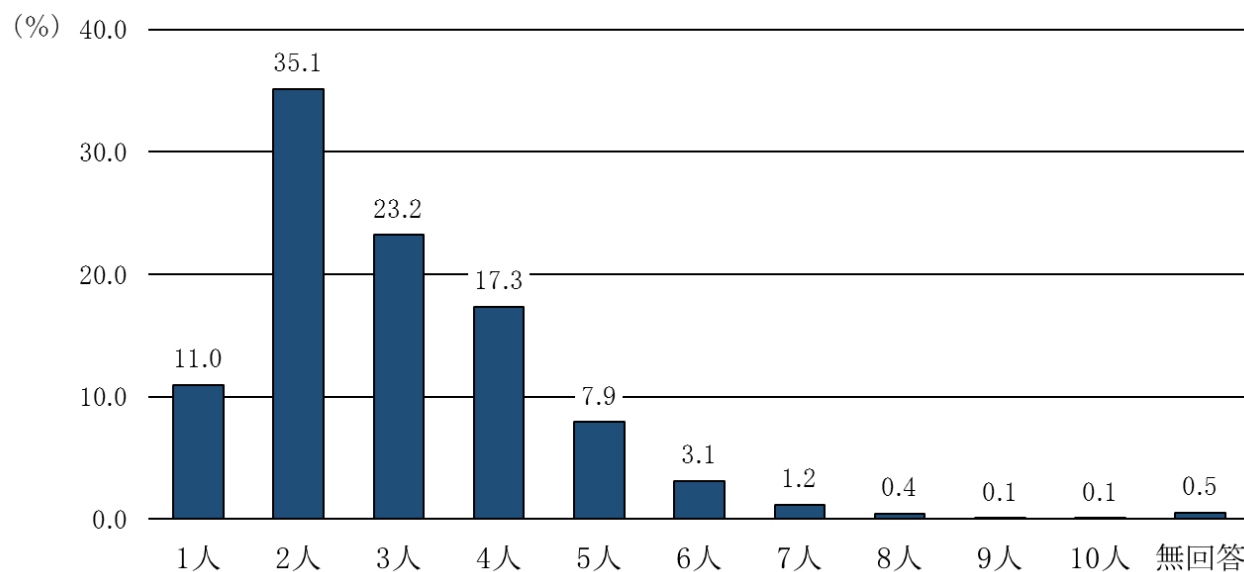


図 I-23 何人で住んでいるか【N=6,948】

同居家族の最年少の年齢を実数値で聞き、10歳ごとにまとめると、「0～9歳」が21.2%と最も高く、次いで、「60歳代」(17.9%)、「70歳代」(12.1%)であった。なお、平均は 40.0 歳であった(図 I-24)。

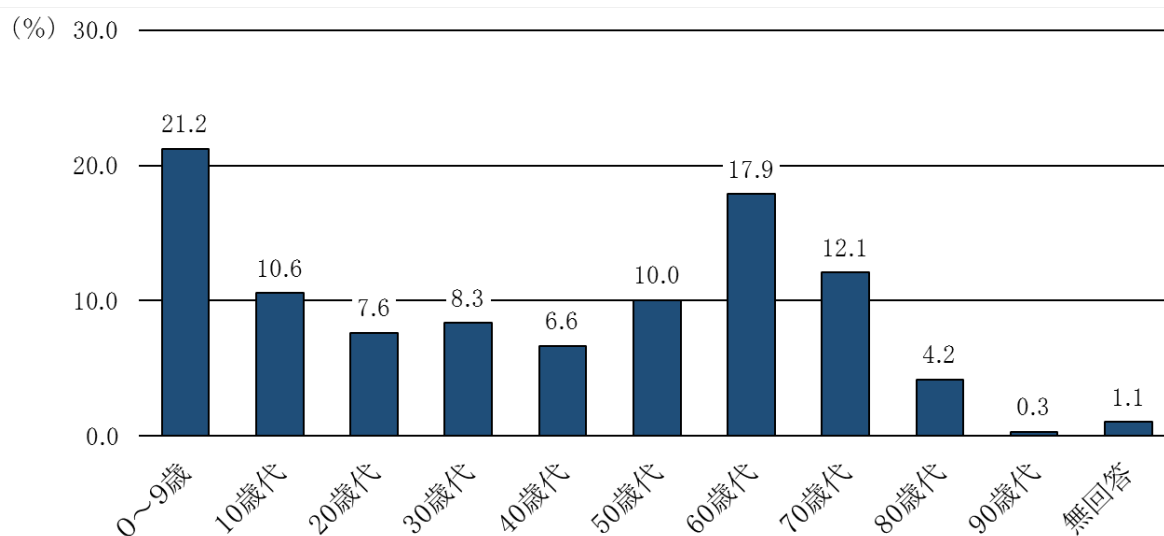


図 I-24 同居家族の最年少の年齢【N=6,948】

同居家族について、「配偶者」が 75.8%と最も高く、次いで、「子供(子供の配偶者を含む)」(51.5%)、「親(配偶者の親を含む)」(13.3%)であった(図 I -25)。

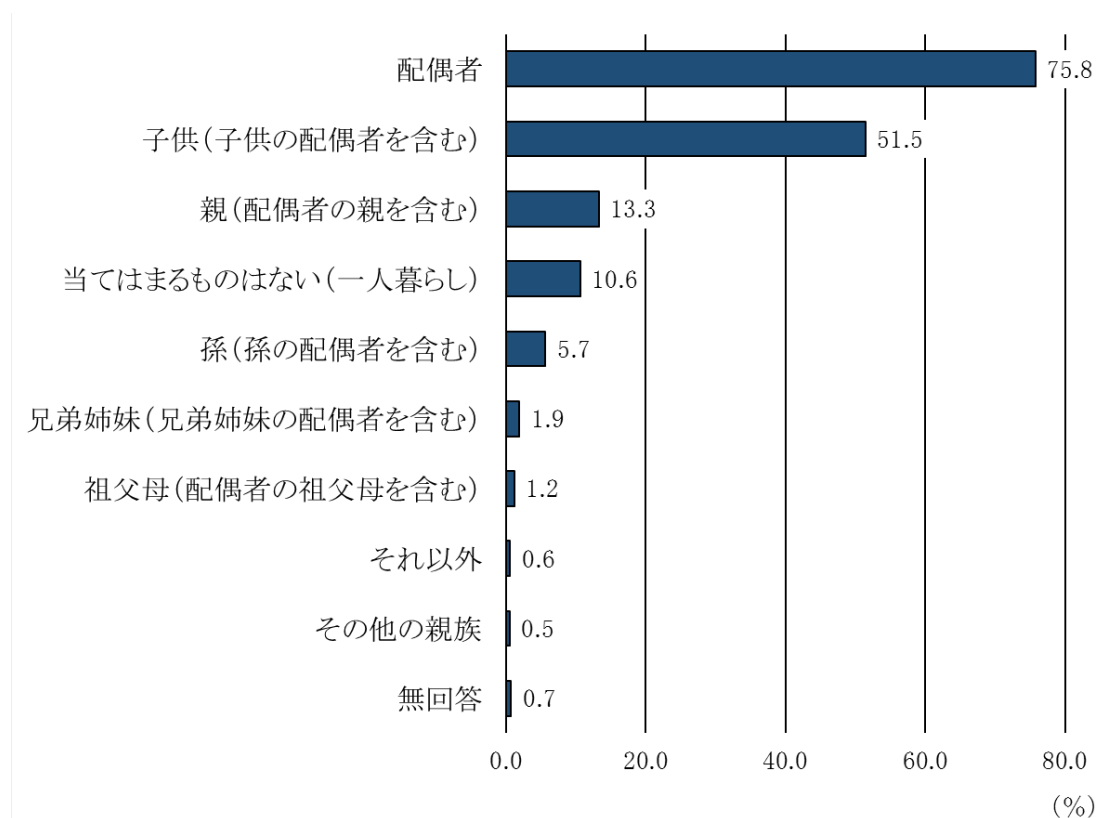


図 I -25 誰と住んでいるか【N=6,948】

問 18 あなたのお住まいは、以下のどれに当てはまりますか(○は1つ)。

居住状況について、「持ち家・一戸建て」が 83.1%と最も高く、次いで、「賃貸・集合住宅」(10.0%)、「賃貸・一戸建て」(3.1%)であった(図 I -26)。

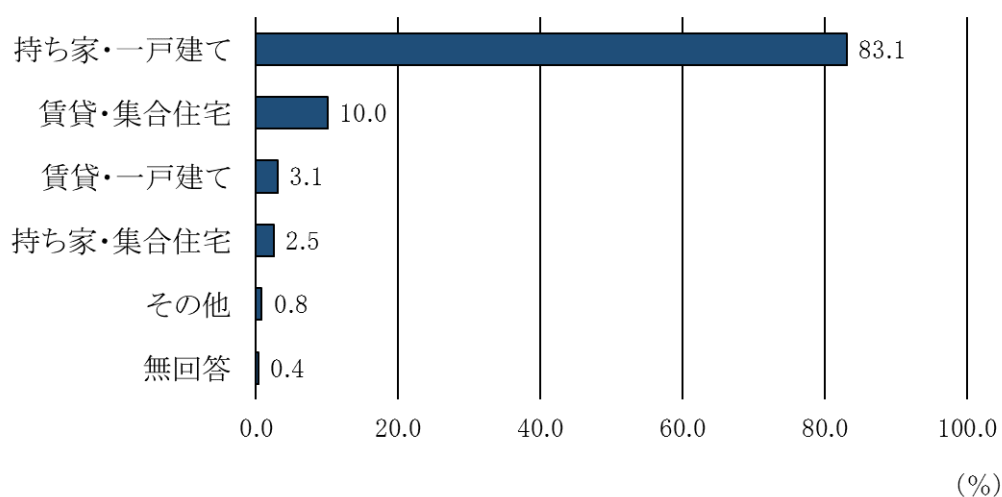


図 I -26 居住状況【N=6,948】

問 19 あなたの現在のお住まいの広さ(敷地ではなく)は、およそどのくらいですか(○は1つ)。

住まいの広さについて、「100 m²～120 m²」が 15.1%と最も高く、次いで、「60 m²～80 m²」(14.7%)、「120 m²～150 m²」(14.1%)であった(図 I -27)。

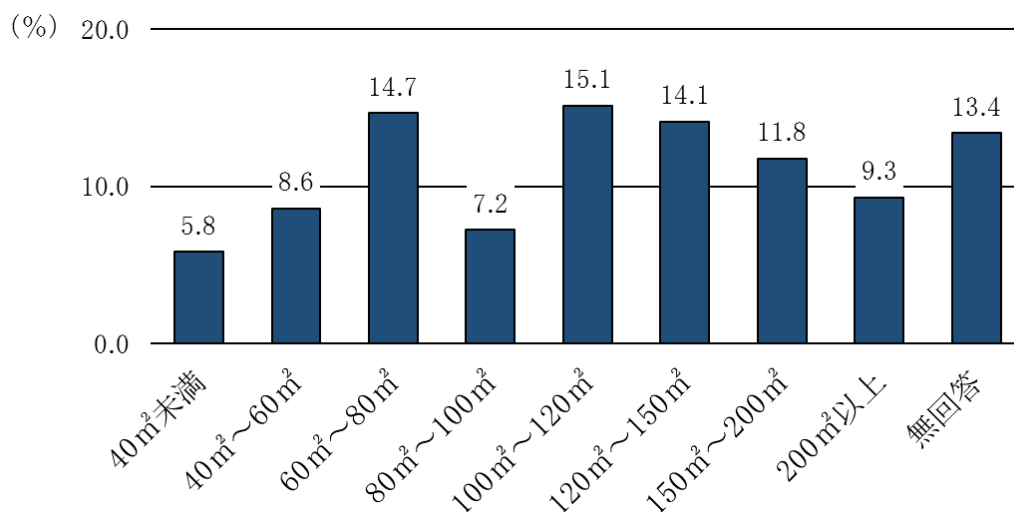


図 I -27 住まいの広さ【N=6,948】

問 20 コロナ前(2019 年)の世帯全体の年収は、およそいくらですか(○は1つ)。

※年収は、手取りではなく、税金、社会保険料等を差し引く前の金額としてください。

新型コロナウイルス感染症の感染拡大前の世帯年収について、「300～600 万円」が 31.8%と最も高く、次いで、「300 万円以下」(26.4%)、「600～900 万円」(21.7%)であった(図 I -28)。

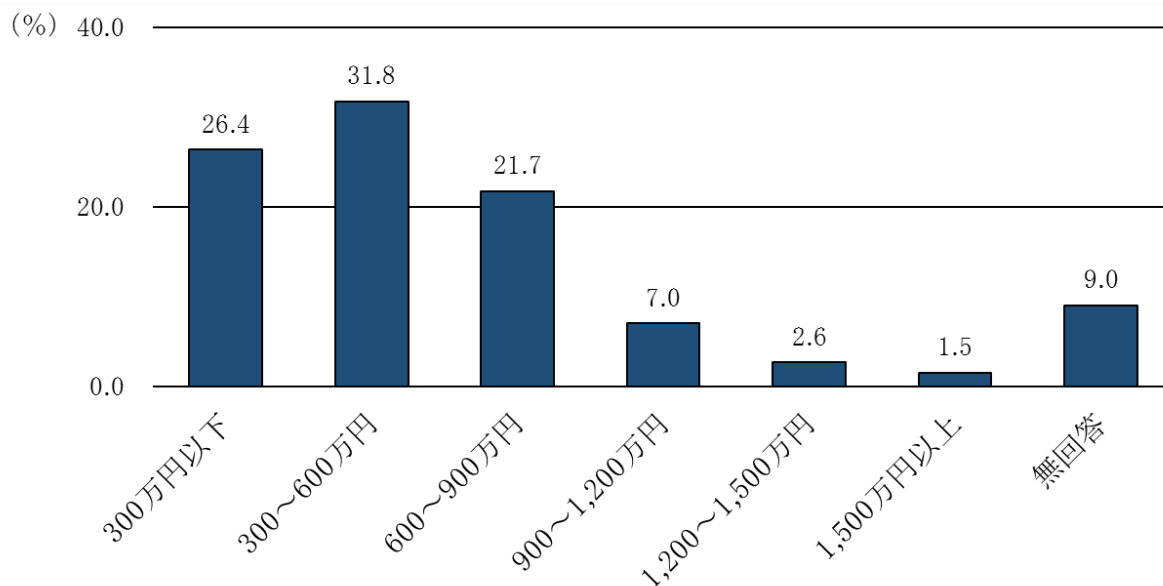


図 I -28 コロナ前の世帯年収【N=6,948】

III 第2回調査

1. 概要

(1) 情報介入の概要

情報の伝え方の違いによる消費者の備蓄行動への影響を明らかにするため、本調査では、モニターをランダムに4グループに分け、各グループに異なるチラシを3回配布した(表Ⅱ-1)。チラシでは日用品・衛生用品・食品について取り上げるが、その内容は「意識」「具体的知識」に関連するものとし、グループごとに差をつけて異なる介入を行った。ここでの「意識」は消費者を意識高揚させるような内容、「具体的知識」は消費者に知識を提供するような内容を意味する。

なお、本報告書はアンケート調査の単純集計結果を取りまとめたものであり、グループごとに分けた集計は行っていない。介入効果の計測結果については、別途発表するリサーチ・ディスカッション・ペーパーで詳述する。

表Ⅱ-1 チラシの概要

	配布時期	テーマ	Aグループ	Bグループ	Cグループ	Dグループ
1 回目	令和3年 3月1日(月) ～3月5日(金)	日用品	・意識 ・具体的知識 ・商品広告	・意識 ・具体的知識	・意識	
2 回目	令和3年 3月15日(月) ～3月19日(金)	衛生用品	・意識 ・具体的知識 ・商品広告	・意識 ・具体的知識	・意識	
3 回目	令和3年 3月29日(月) ～4月2日(金)	食品	・意識 ・具体的知識 ・商品広告	・意識 ・具体的知識	・意識	

(2) 調査の概要

チラシによるモニターへの情報介入後、第1回アンケート調査の回答者に対し、第2回アンケート調査を実施した(表Ⅱ-2・表Ⅱ-3)。

表Ⅱ-2 調査の概要

調査期間	調査票配布:令和3年7月5日(月)～令和3年7月9日(金) 調査票回収:令和3年7月12日(月)～令和3年7月30日(金)
調査方法	とくしま生協配送担当者による、調査票の配布・回収 (調査票については、巻末の参考資料を参照)
調査対象者	とくしま生協に加入し、宅配による商品の購入を行っている徳島県内在住の組合員
調査事項	新型コロナウイルス感染症の感染拡大による、消費や生活の変化や食料や日用品等の備蓄状況、普段の生活等
配布者数	8,929人(第1回調査の回答者数から脱退者を除いた人数)
有効回答者数	6,948人

表Ⅱ-3 分析対象データについて

調査名	対象者数	備考
第1回調査	8,988	回答者数
	289	(1-1)年齢無回答
	280	(1-2)性別無回答
	91	(1-3)約半数以上の設問に無回答・誤回答
第2回調査	7,245	回答者数
	41	(2)約半数以上の設問に無回答・誤回答
除外対象データ	2,040	(1-1)～(2)のいずれかに該当
分析対象データ	6,948	第1回調査の回答者数から除外対象データを減じたもの

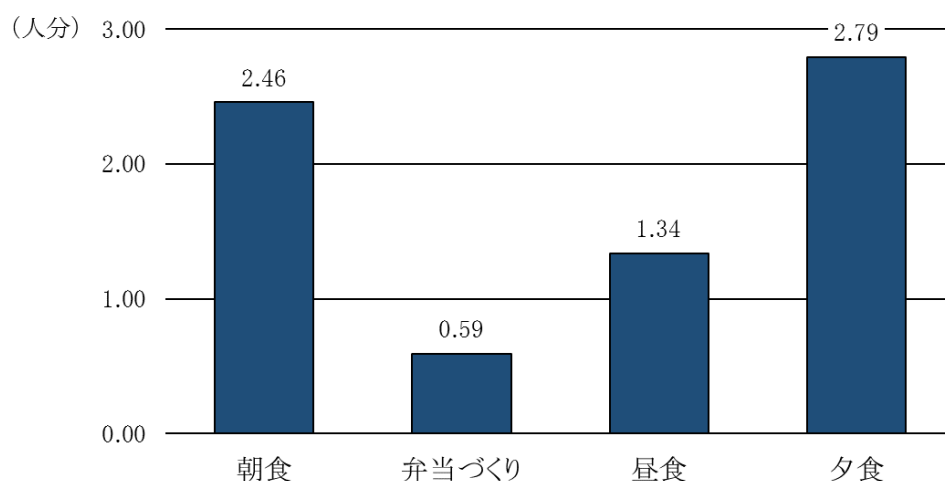
2. 調査結果

※計数は、それぞれ四捨五入しているため、合計において一致しない場合がある。

(1) 生活変化

問1 現在、ご自宅での食事の支度(出前やテイクアウトも含め)に必要な量はどの程度ですか。同居のご家族全体について、平日のだいたいの平均をお答えください(数字を記入)。

自宅で何人分の食事の支度をしていたかについて、「夕食」が2.79人分と最も高く、次いで、「朝食」(2.46人分)、「昼食」(1.34人分)であった(図Ⅱ-1)。

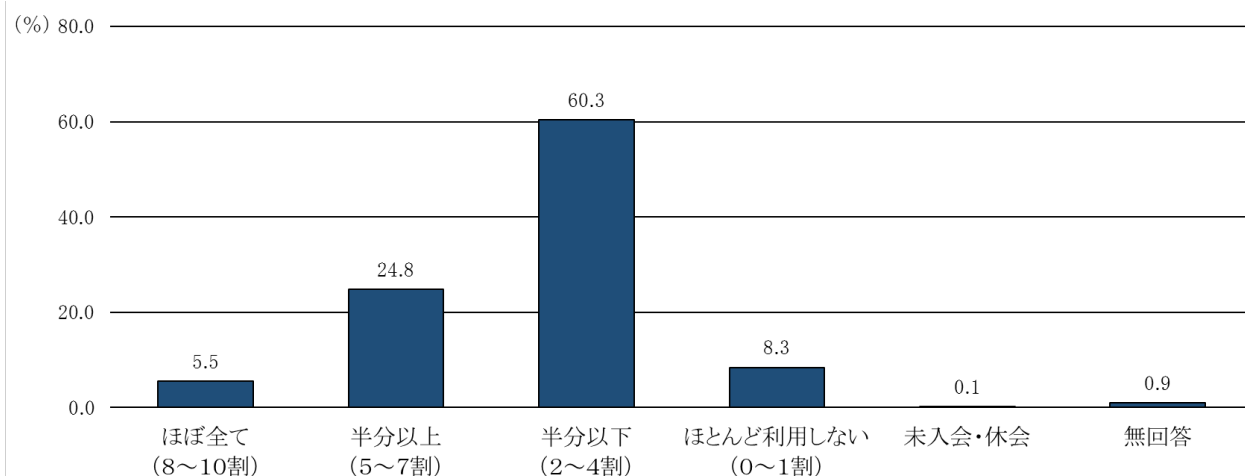


図Ⅱ-1 自宅での食事の支度量【N=6,891※】

※全項目に回答したもののみ集計

問2 食料品と日用品の購入金額のうち、先月(2021年6月)にとくしま生協(宅配)で購入した割合はどの程度ですか(1つに○)。

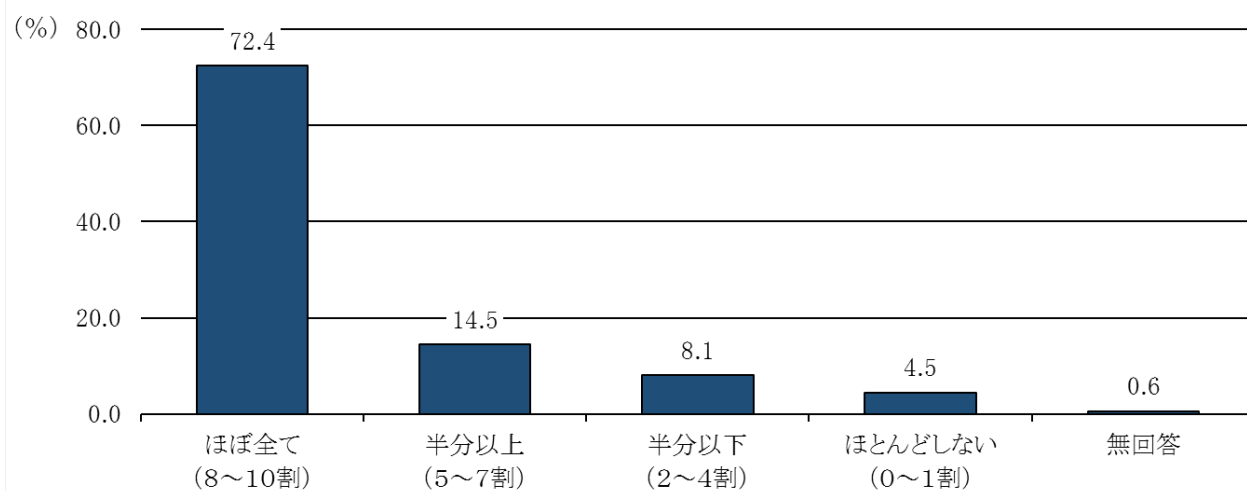
食料品と日用品の購入金額のうちとくしま生協(宅配)で購入した割合は、「半分以下(2~4割)」が60.3%と最も高く、次いで、「半分以上(5~7割)」(24.8%)、「ほとんど利用しない(0~1割)」(8.3%)であった(図Ⅱ-2)。



図Ⅱ-2 食料品と日用品の購入金額におけるとくしま生協(宅配)の購入割合【N=6,948】

問3 あなたご自身は、日々の食事の支度をどの程度行っていますか(1つに○)。

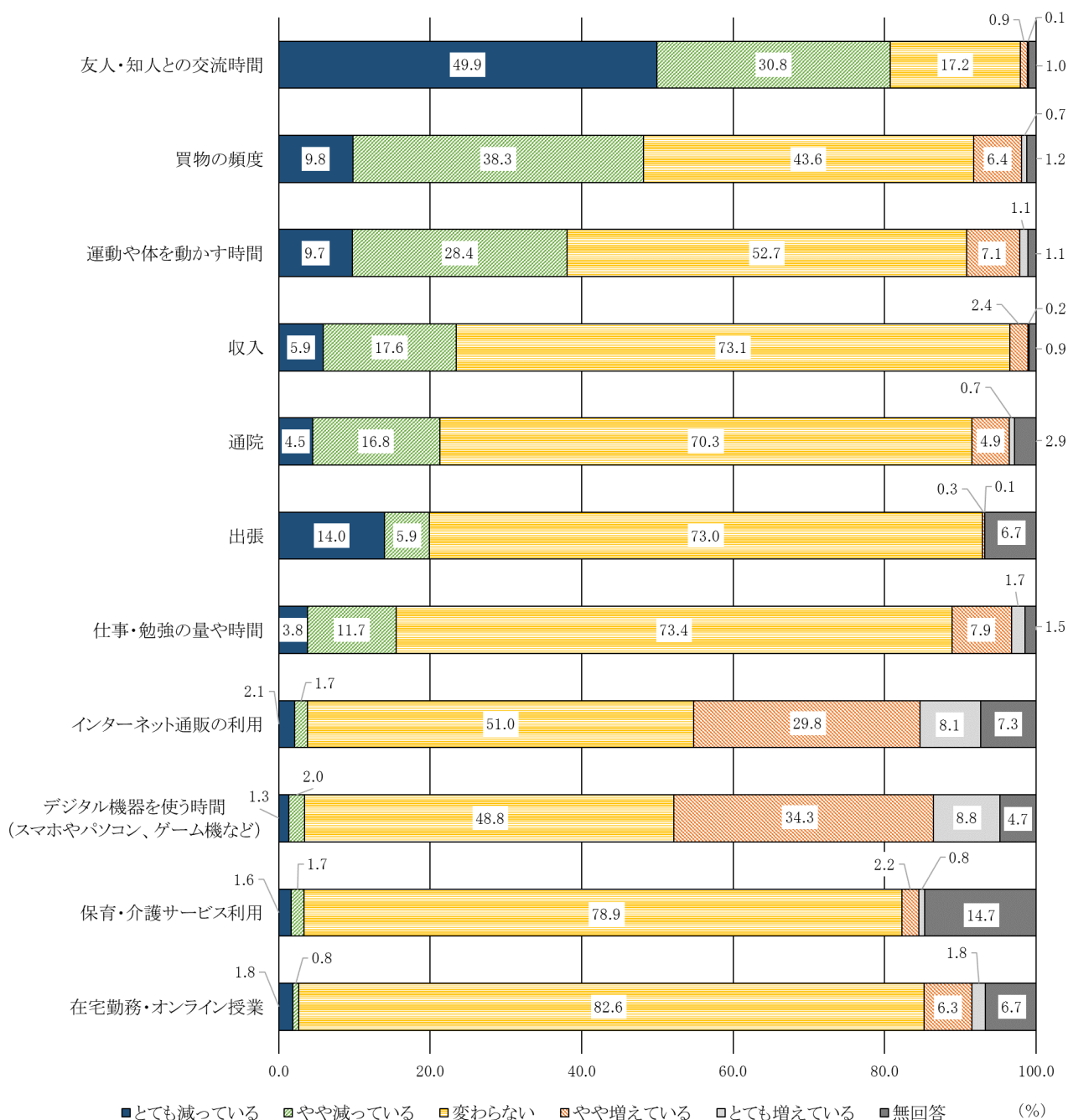
日々の食事の支度をどの程度ご自身で行っているかについて、「ほぼ全て(8～10割)」が 72.4%と最も高く、次いで、「半分以上(5～7割)」(14.5%)、「半分以上(2～4割)」(8.1%)であった(図Ⅱ－3)。



図Ⅱ－3 ご自身の食事の支度量【N=6,948】

問4 新型コロナウイルス感染拡大以前(2020 年2月以前)と比べて、現在(2021 年7月)の生活はどのくらい変化していますか。あなたを含めた同居のご家族全体について、「とても減っている」～「とても増えている」から1つずつお選びください。(それぞれ1つに○)。※感染拡大前後のどちらも「ない」「していない」項目は、「変わらない」を選んでください。

新型コロナウイルス感染拡大以前(2020 年2月以前)と比べた回答時現在(2021 年7月)の生活の変化について、「減った(『とても減った』+『やや減った』)」と回答した人の割合が高い順に見ると、「友人・知人との交流時間」が 80.8%(49.9%+30.8%)と最も高く、次いで、「買物の頻度」が 48.1%(9.8%+38.3%)、「運動や体を動かす時間」が 38.1%(9.7%+28.4%)であった(図Ⅱ-4)。



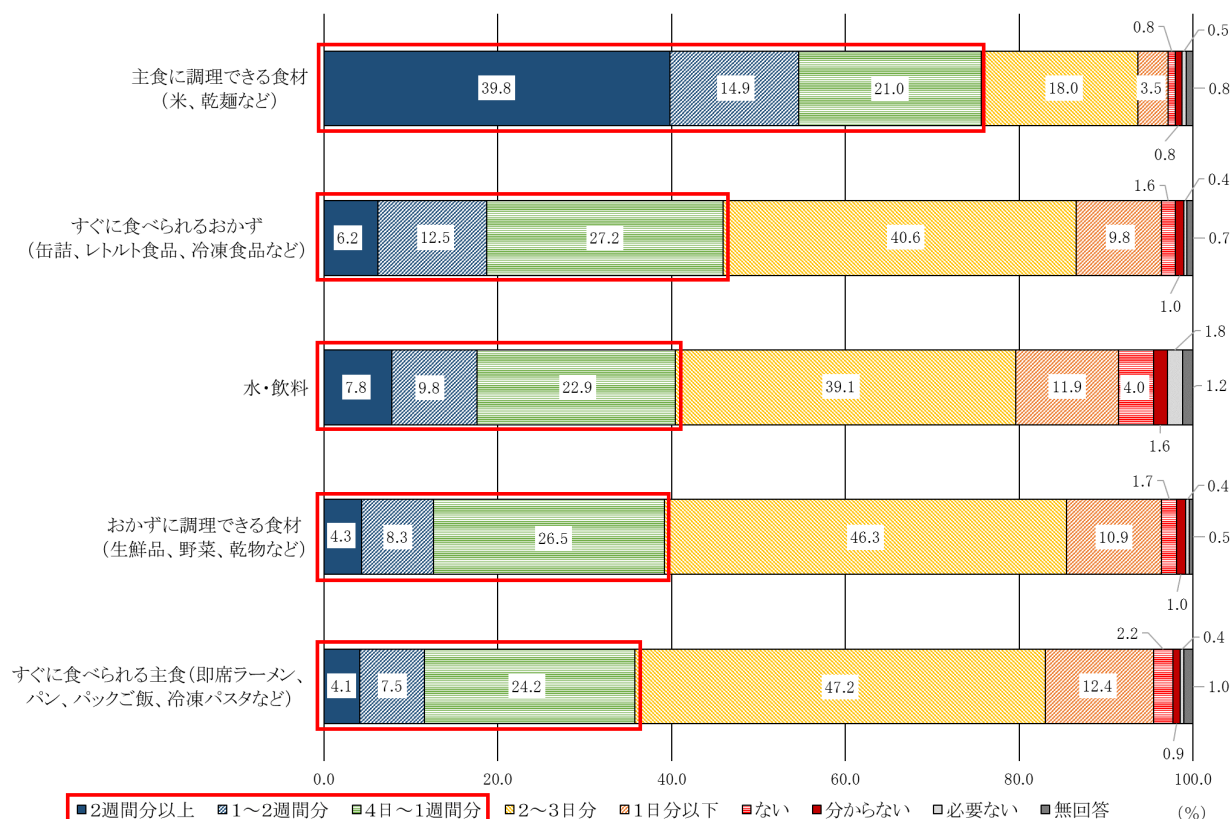
図Ⅱ-4 生活の変化(感染拡大以前と比べた回答時現在(2021 年7月))【N=6,948】

(2) 日頃の備え

問5 現在、ご自宅に食料品の予備がどのくらいありますか。たった今、食料品が手に入らない状況になったと考えて、同居のご家族全体でどのくらいあるかお答えください(それぞれ1つに○)。

少なくとも3日分以上必要とされる食料品の備蓄状況について尋ねた。

「4日分以上(『2週間分以上』+『1～2週間分』+『4日～1週間分』)」と回答した人の割合(図中の赤枠に該当)が高い順に見ると、「主食に調理できる食材(米、乾麺など)」が 75.6%(39.8%+14.9%+21.0%)と最も高く、次いで、「すぐに食べられるおかず(缶詰、レトルト食品、冷凍食品など)」が 45.9%(6.2%+12.5%+27.2%)、「水・飲料」が 40.4%(7.8%+9.8%+22.9%)であった(図Ⅱ-5)。

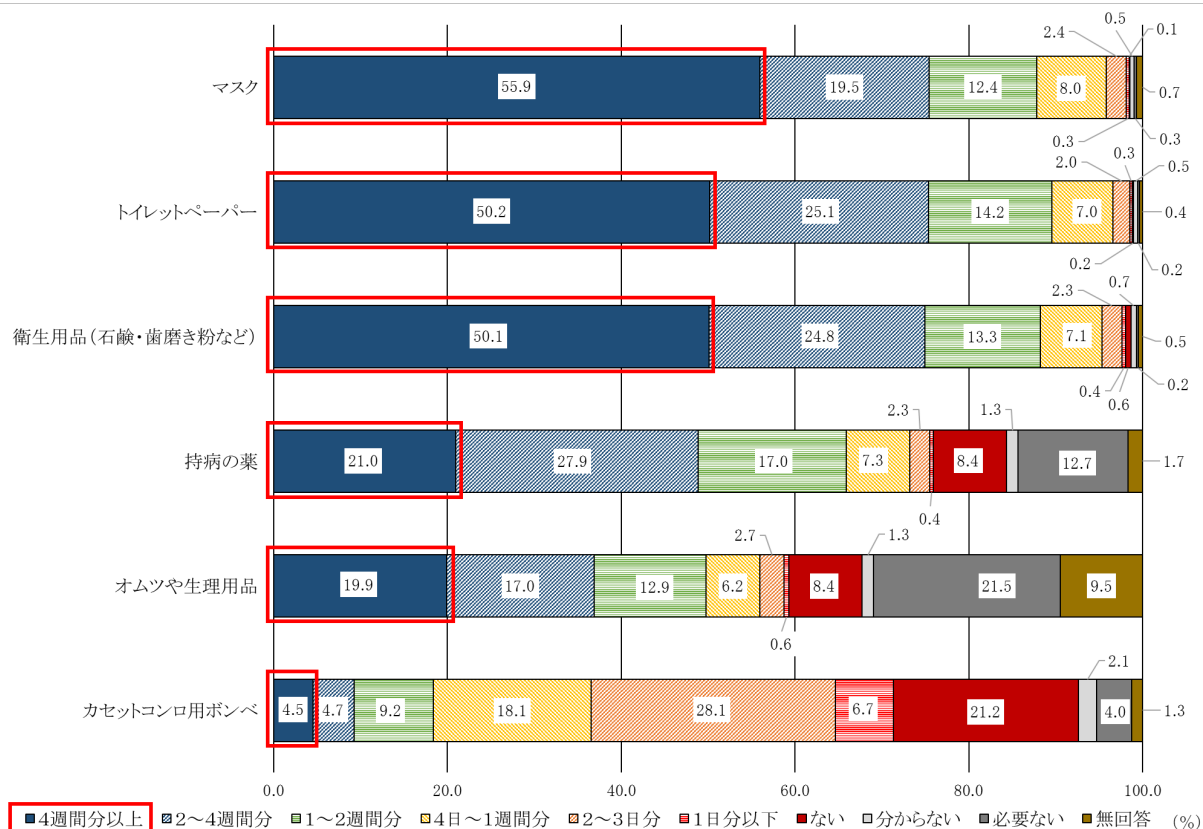


図Ⅱ-5 食料品の備蓄状況【N=6,948】

問6 現在、ご自宅に以下の予備がどのくらいありますか。たった今、生活必需品が手に入らない状況になったと
 考えて、同居のご家族全体でどのくらいあるかお答えください(それぞれ1つに○)。

4週間分が目安とされる生活必需品の備蓄状況について尋ねた。

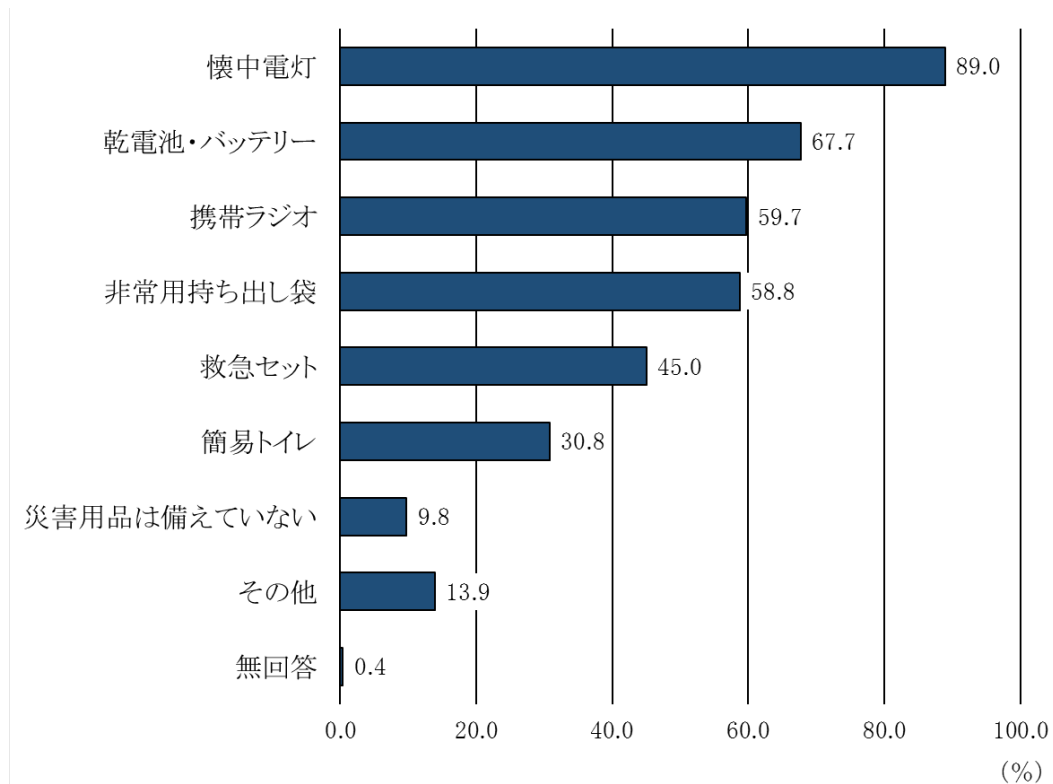
「4週間分以上」と回答した人の割合(図中の赤枠に該当)が高い順に見ると、「マスク」が 55.9%と最も高く、次
 いで、「トイレトペーパー」が 50.2%、「衛生用品(石鹸・歯磨き粉など)」が 50.1%であった(図Ⅱ-6)。



図Ⅱ-6 生活必需品の備蓄状況【N=6,948】

問7 ご自宅で災害用に、以下のものを備えていますか(○はいくつでも)。

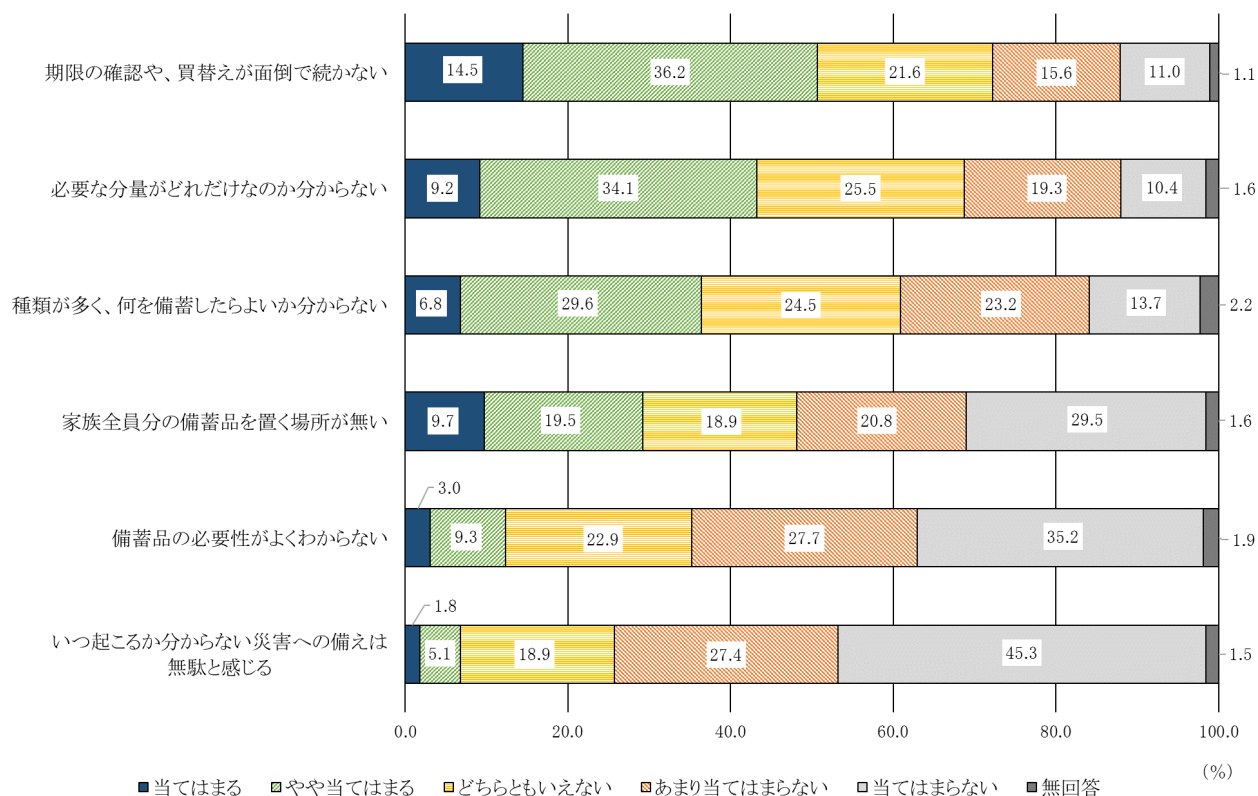
自宅で災害用に備えているものは、「懐中電灯」が 89.0%と最も高く、次いで、「乾電池・バッテリー」(67.7%)、「携帯ラジオ」(59.7%)であった(図Ⅱ－7)。



図Ⅱ－7 災害への備え【N=6,948】

問8 食品や日用品の備蓄についてお聞きます。以下の内容について、あなたはどれくらい当てはまりますか（それぞれ1つに○）。

食品や日用品の備蓄について、「当てはまる（『当てはまる』+『やや当てはまる』）」と回答した人の割合が高い順に見ると、「期限の確認や、買替えが面倒で続かない」が 50.6%（14.5%+36.2%）と最も高く、次いで、「必要な分量がどれだけなのか分からない」が 43.2%（9.2%+34.1%）、「種類が多く、何を備蓄したらよいか分からない」が 36.4%（6.8%+29.6%）であった（図Ⅱ－8）。

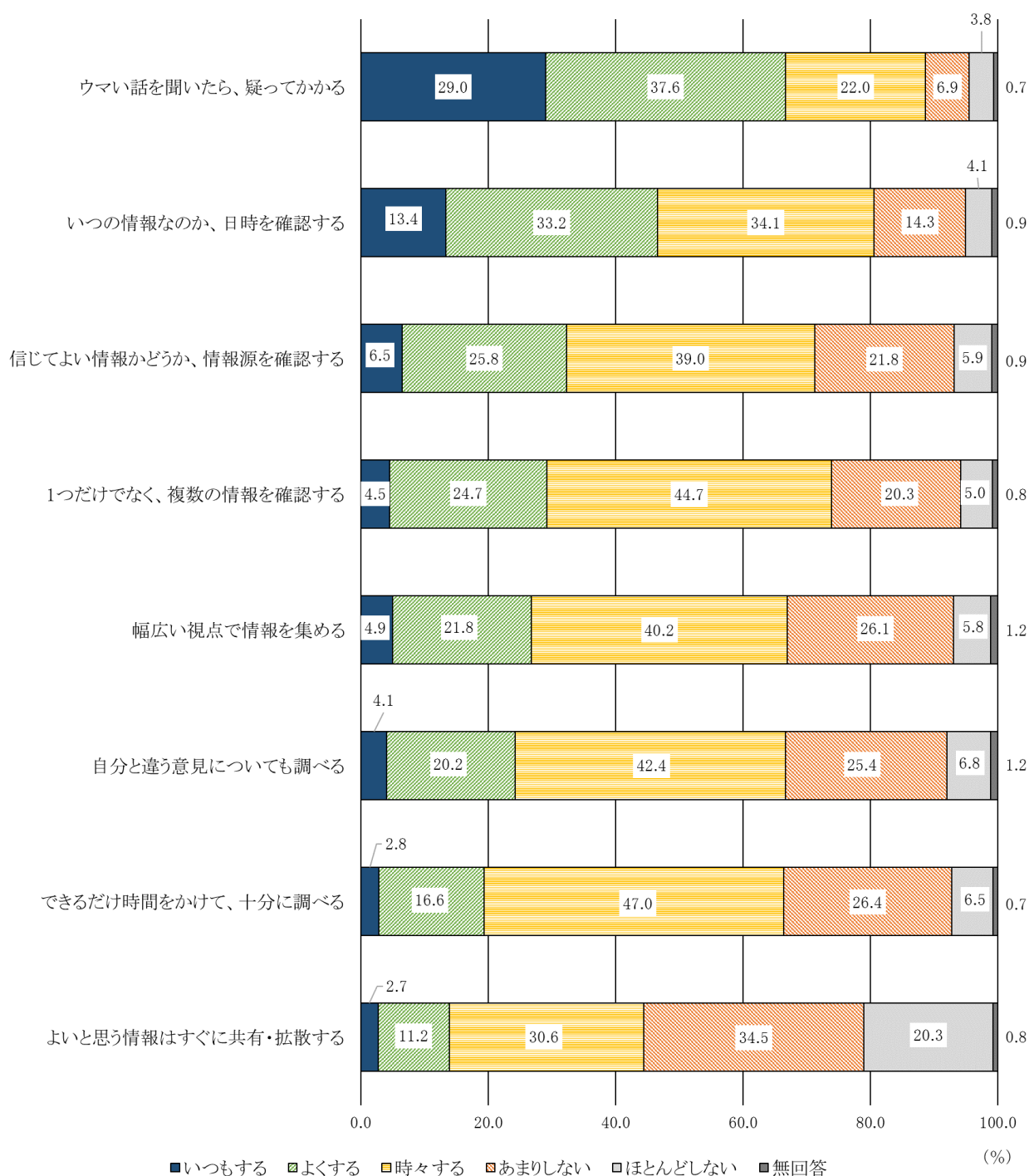


図Ⅱ－8 食品や日用品の備蓄についての意識【N=6,948】

(3) 情報との関わり

問9 普段、生活に身近な情報との関わりで、以下のことをどの程度していますか(それぞれ1つに○)。

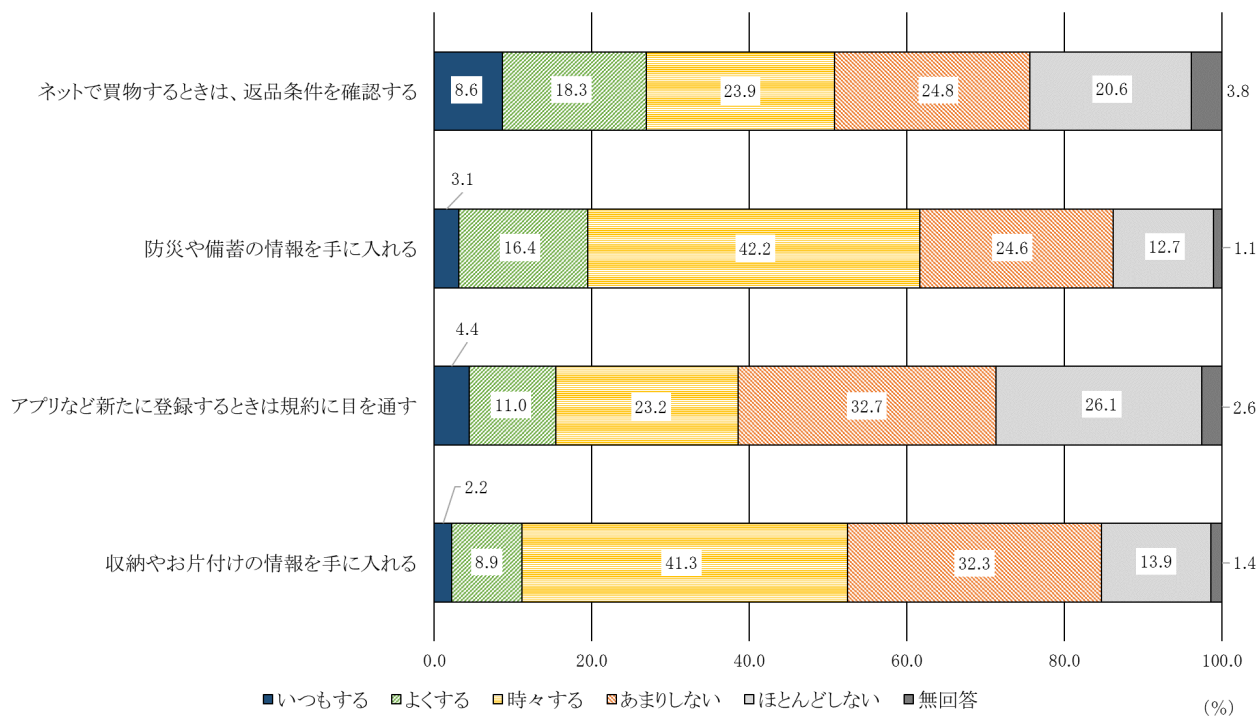
生活に身近な情報への関わりについて、「する(『いつもする』+『よくする』)」と回答した人の割合が高い順に見ると、「ウまい話を聞いたら、疑ってかかる」が 66.7% (29.0%+37.6%)と最も高く、次いで、「いつの情報なのか、日時を確認する」が 46.5% (13.4%+33.2%)、「信じてよい情報かどうか、情報源を確認する」が 32.3% (6.5%+25.8%)であった(図Ⅱ-9)。



図Ⅱ-9 生活に身近な情報への関わり方【N=6,948】

問 10 普段、以下の情報を、確認したり手に入れたりしていますか(それぞれ1つに○)。

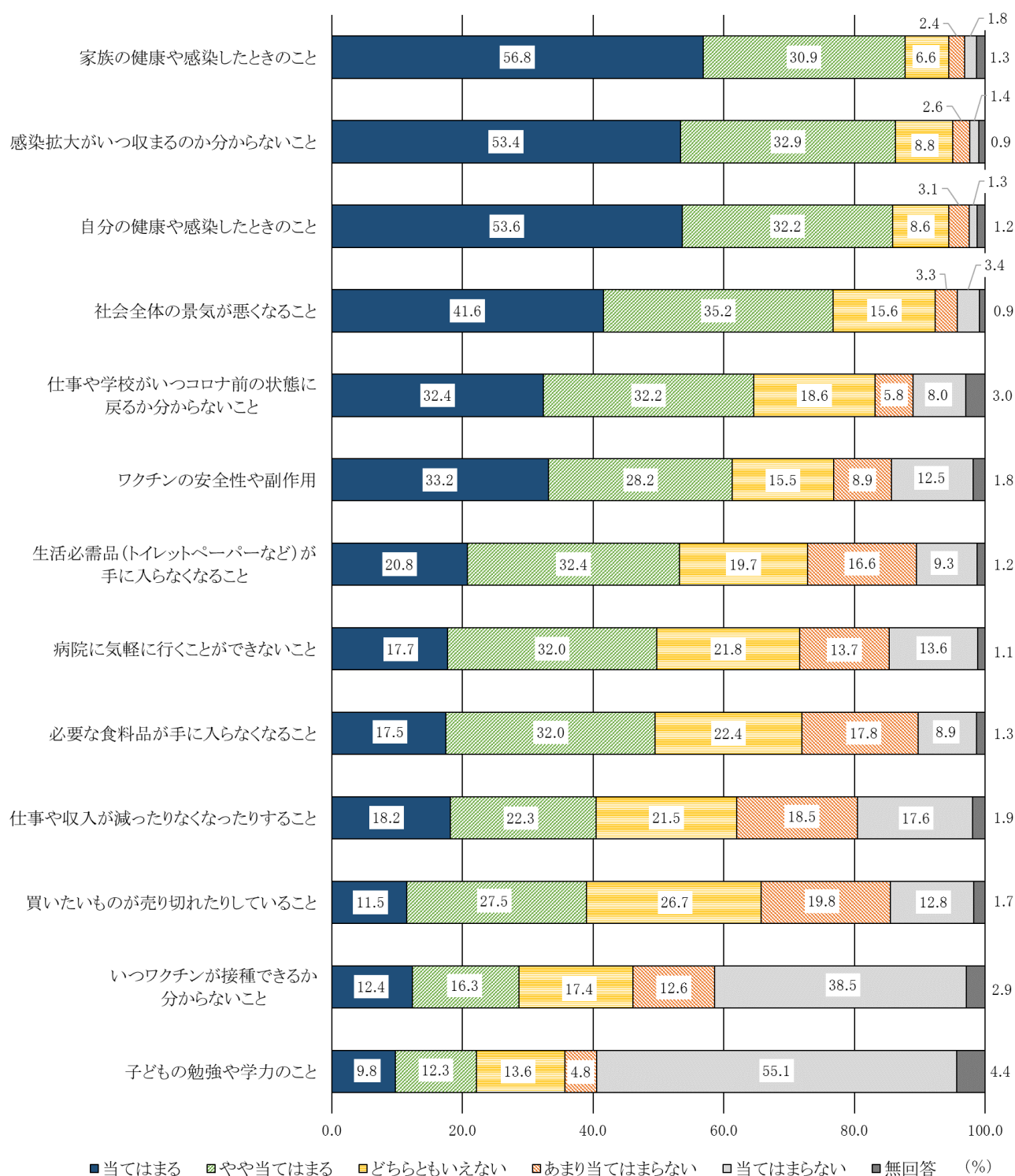
普段、以下の情報を確認したり手に入れたりしているかについて、「する(『いつもする』+『よくする』)」と回答した人の割合が高い順に見ると、「ネットで買物するときは、返品条件を確認する」が 26.9%(8.6%+18.3%)と最も高く、次いで、「防災や備蓄の情報を手に入れる」が 19.5%(3.1%+16.4%)、「アプリなど新たに登録するときは規約に目を通す」が 15.4%(4.4%+11.0%)であった(図Ⅱ-10)。



図Ⅱ-10 情報の確認や入手【N=6,948】

問 11 現在、あなたは新型コロナウイルス感染拡大について、どのようなことをどれくらい不安に思いますか(それぞれ1つに○)。

新型コロナウイルス感染症の感染拡大について不安に思うことは、「当てはまる(『当てはまる』+『やや当てはまる』)」と回答した人の割合が高い順に見ると、「家族の健康や感染したときのこと」が 87.7% (56.8%+30.9%)と最も高く、次いで、「感染拡大がいつ収まるのか分からないこと」が 86.3% (53.4%+32.9%)、「自分の健康や感染したときのこと」が 85.9% (53.6%+32.2%)であった(図Ⅱ-11)。

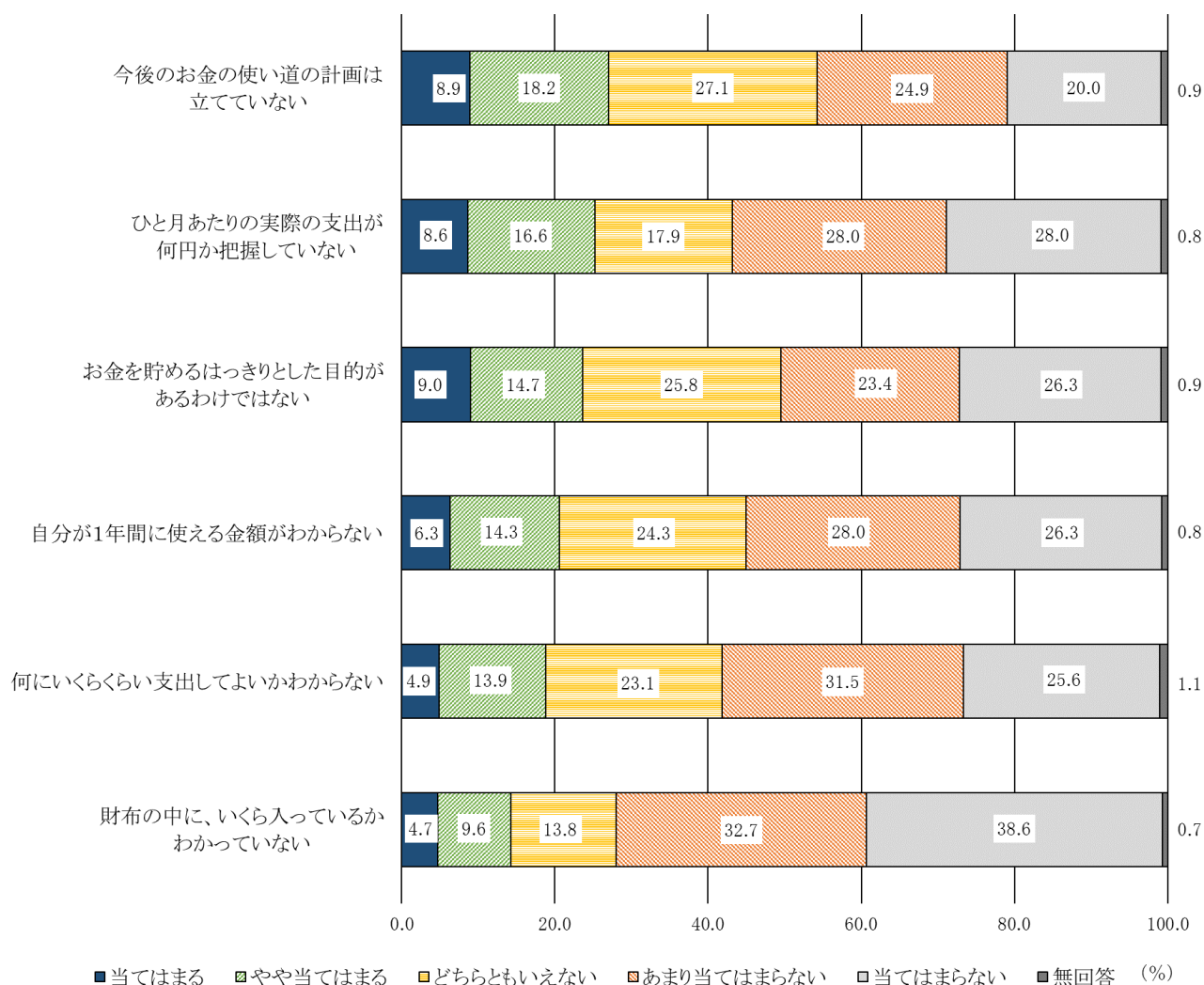


図Ⅱ-11 不安に思うこと【N=6,948】

(4) 生活資源管理

問 12 収支や金銭の管理についてお聞きます。以下の内容について、あなたはどれくらい当てはまりますか(それぞれ1つに○)。

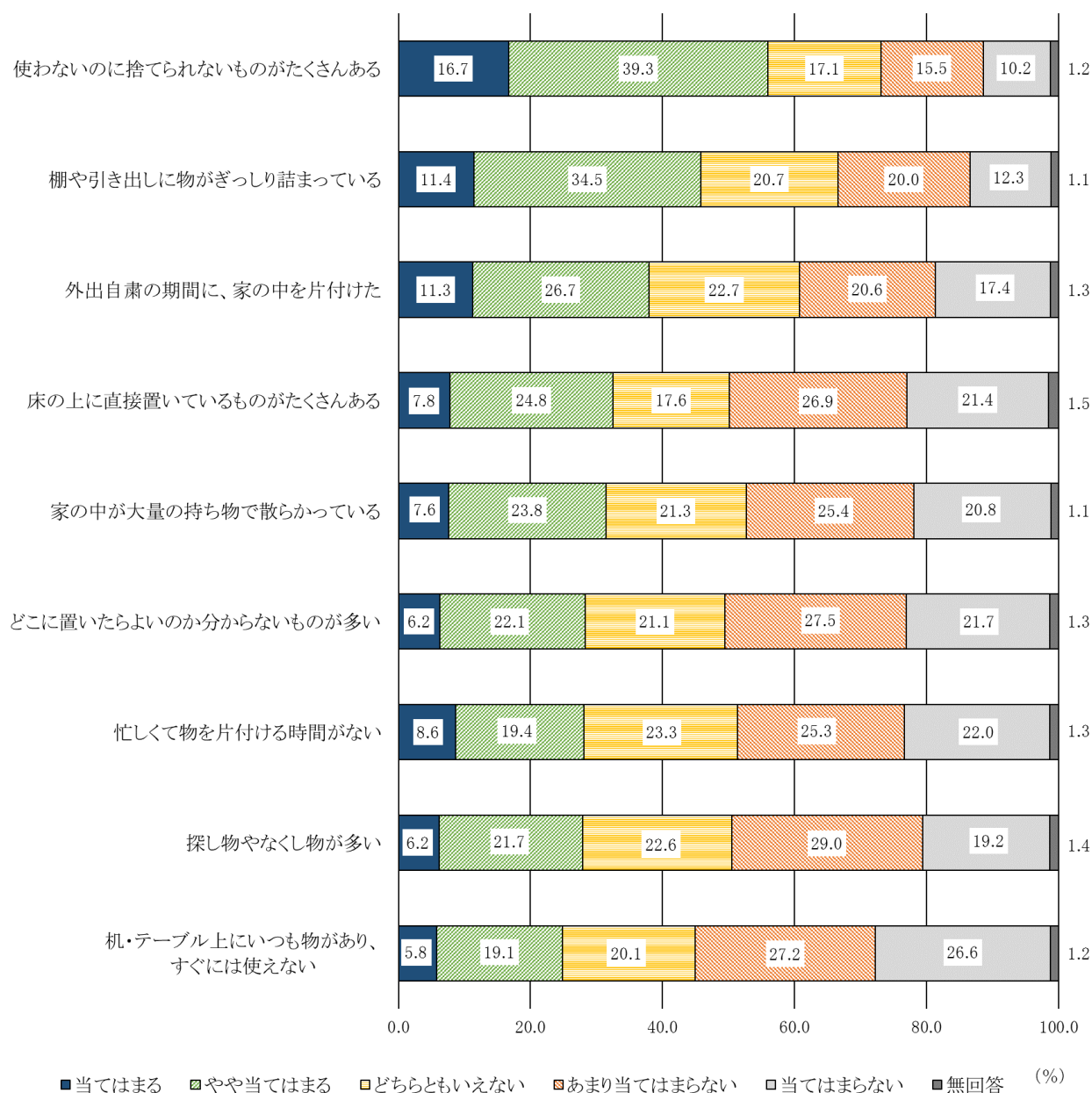
収支や金銭の管理について、「当てはまる(『当てはまる』+『やや当てはまる』)」と回答した人の割合が高い順に見ると、「今後のお金の使い道の計画は立てていない」が 27.1%(8.9%+18.2%)と最も高く、次いで、「ひと月あたりの実際の支出が何円か把握していない」が 25.2%(8.6%+16.6%)、「お金を貯めるはっきりとした目的があるわけではない」が 23.6%(9.0%+14.7%)であった(図Ⅱ-12)。



図Ⅱ-12 収支や金銭の管理【N=6,948】

問 13 ご自分の部屋や住まいについてお聞きます。以下の内容について、あなたはどれくらい当てはまりますか(それぞれ1つに○)。

部屋や住まいの状況について、「当てはまる(『当てはまる』+『やや当てはまる』)」と回答した人の割合が高い順に見ると、「使わないのに捨てられないものがたくさんある」が 56.0%(16.7%+39.3%)と最も高く、次いで、「棚や引き出しに物がぎっしり詰まっている」が 45.9%(11.4%+34.5%)、「外出自粛の期間に、家の中を片付けた」が 38.0%(11.3%+26.7%)であった(図Ⅱ-13)。



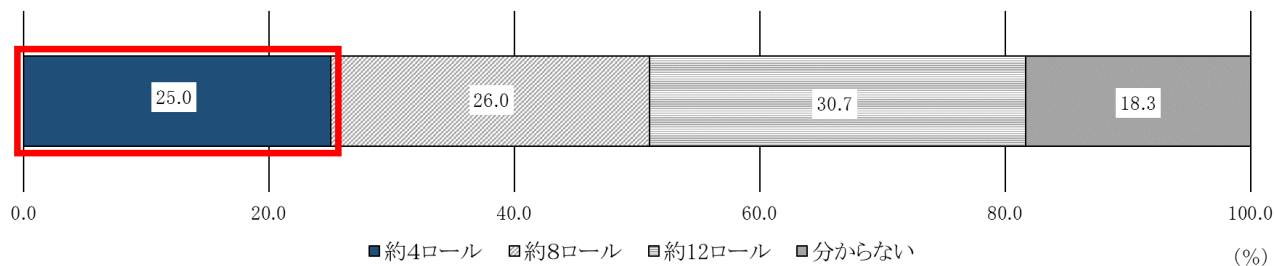
図Ⅱ-13 部屋や住まいの状況【N=6,948】

問 14 消費生活や家庭での備蓄品について、次のクイズにお答えください

※赤枠で囲まれた選択肢が正解です。

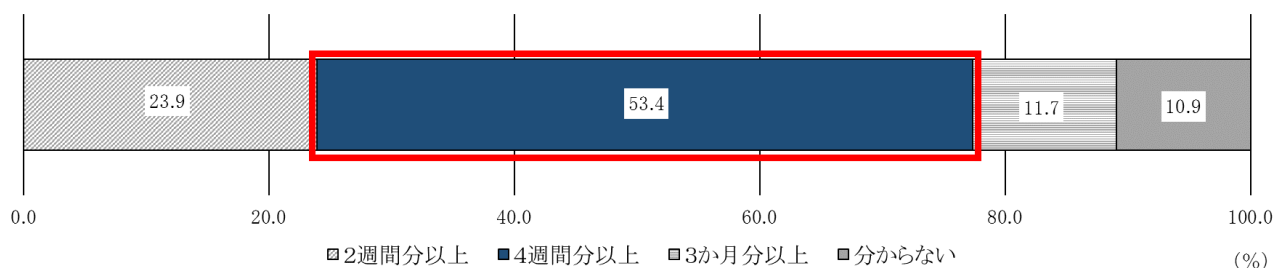
a. トイレトペーパーの備蓄量は、1人当たりシングル・普通巻き何ロール分が目安でしょうか？

正解は「約4ロール」で正解率は25.0%であった。回答数が最も多かったのは「約12ロール」で30.7%であった。



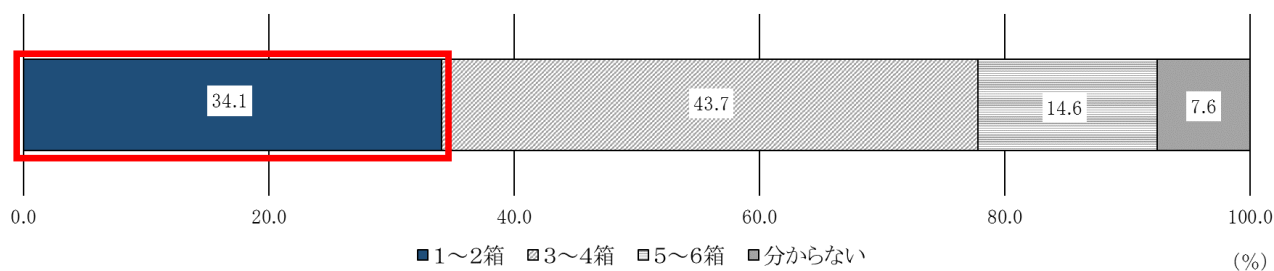
b. 非常時の混乱をしのぐために、トイレトペーパーはどのくらい備蓄すればよいとされるでしょうか？

正解は「4週間分以上」で正解率は53.4%であった。回答数が最も多かったのも「4週間分以上」であった。



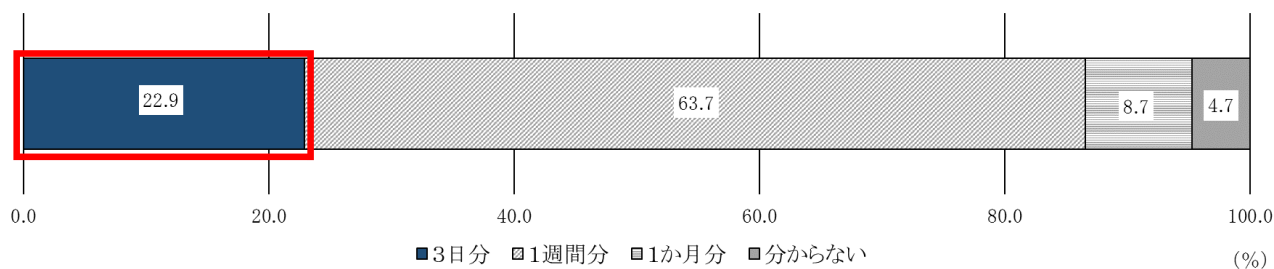
c. 布マスクがある場合、不織布マスクの予備は、どの程度あればよさそうですか？

正解は「1～2箱」で正解率は34.1%であった。回答数が最も多かったのは「3～4箱」で43.7%であった。



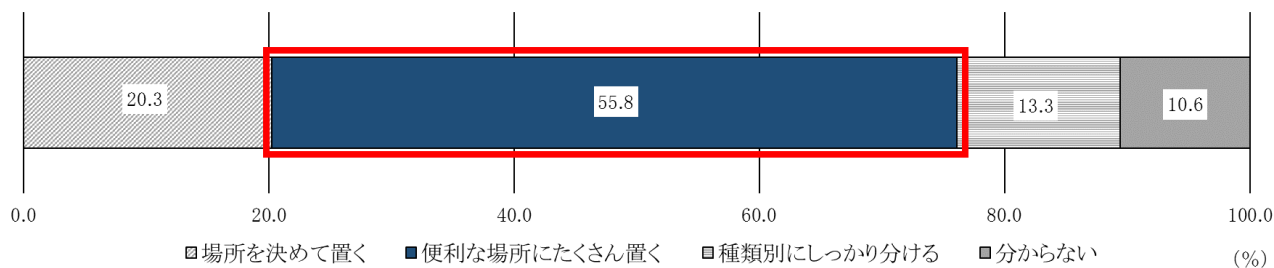
d. 非常時のために、家族がしのげる食品を最低何日分備えておくべきですか？

正解は「3日分」で正解率は22.9%であった。回答数が最も多かったのは「1週間分」で63.7%であった。



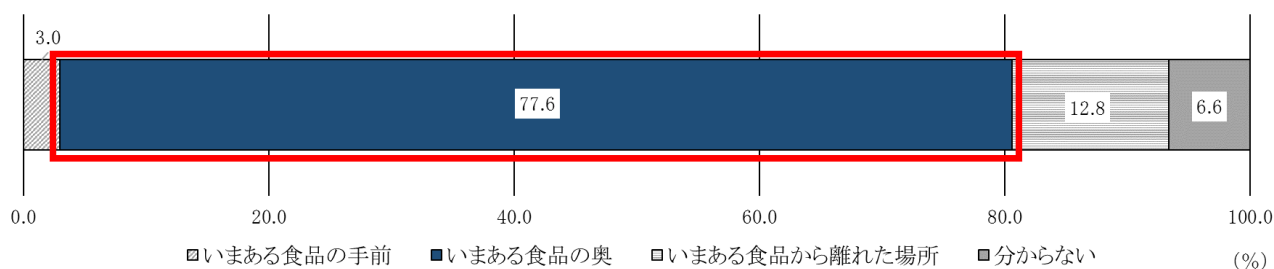
e. 細かな日用品の収納として適していないと思われる方法はどれでしょうか？

正解は「便利な場所にたくさん置く」で正解率は 55.8%であった。回答数が最も多かったのも「便利な場所にたくさん置く」であった。



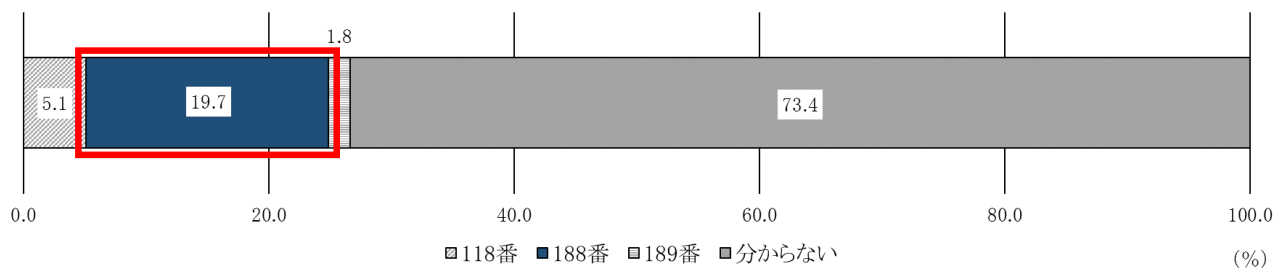
f. 新たに買ってきた備蓄用食品の適切な置き場所は？

正解は「いまある食品の奥」で正解率は 77.6%であった。回答数が最も多かったのも「いまある食品の奥」であった。



g. 消費生活に関する相談をしたいときにかける電話番号は？

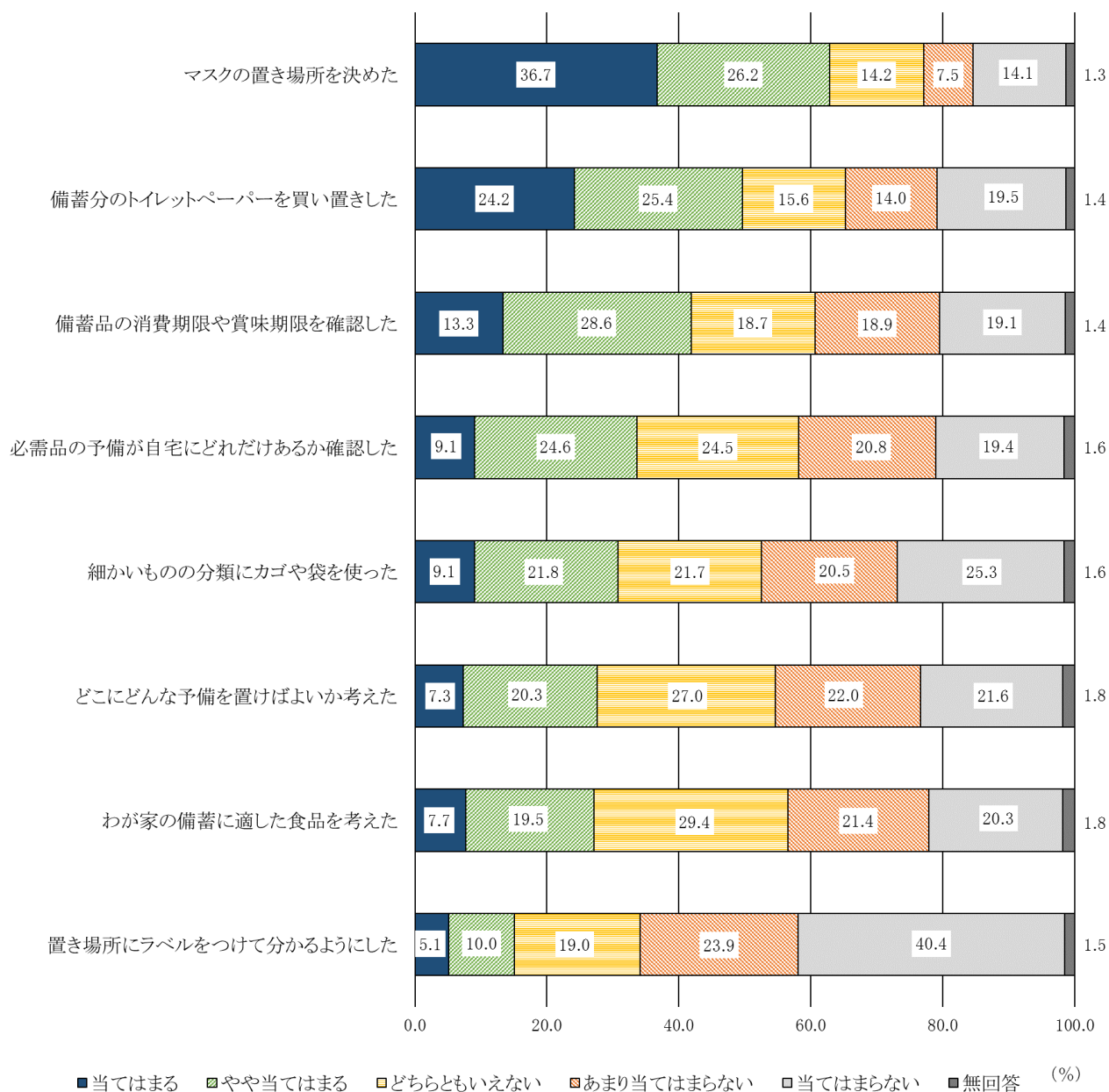
正解は「188 番」で正解率は 19.7%であった。回答数が最も多かったのは「分からない」で 73.4%であった。



図Ⅱ－14 消費生活や家庭での備蓄品に関するクイズ結果【N=6,948】

問 15 あなたのご家庭では、この3か月くらいの間で以下のことを行いましたか(それぞれ1つに○)。

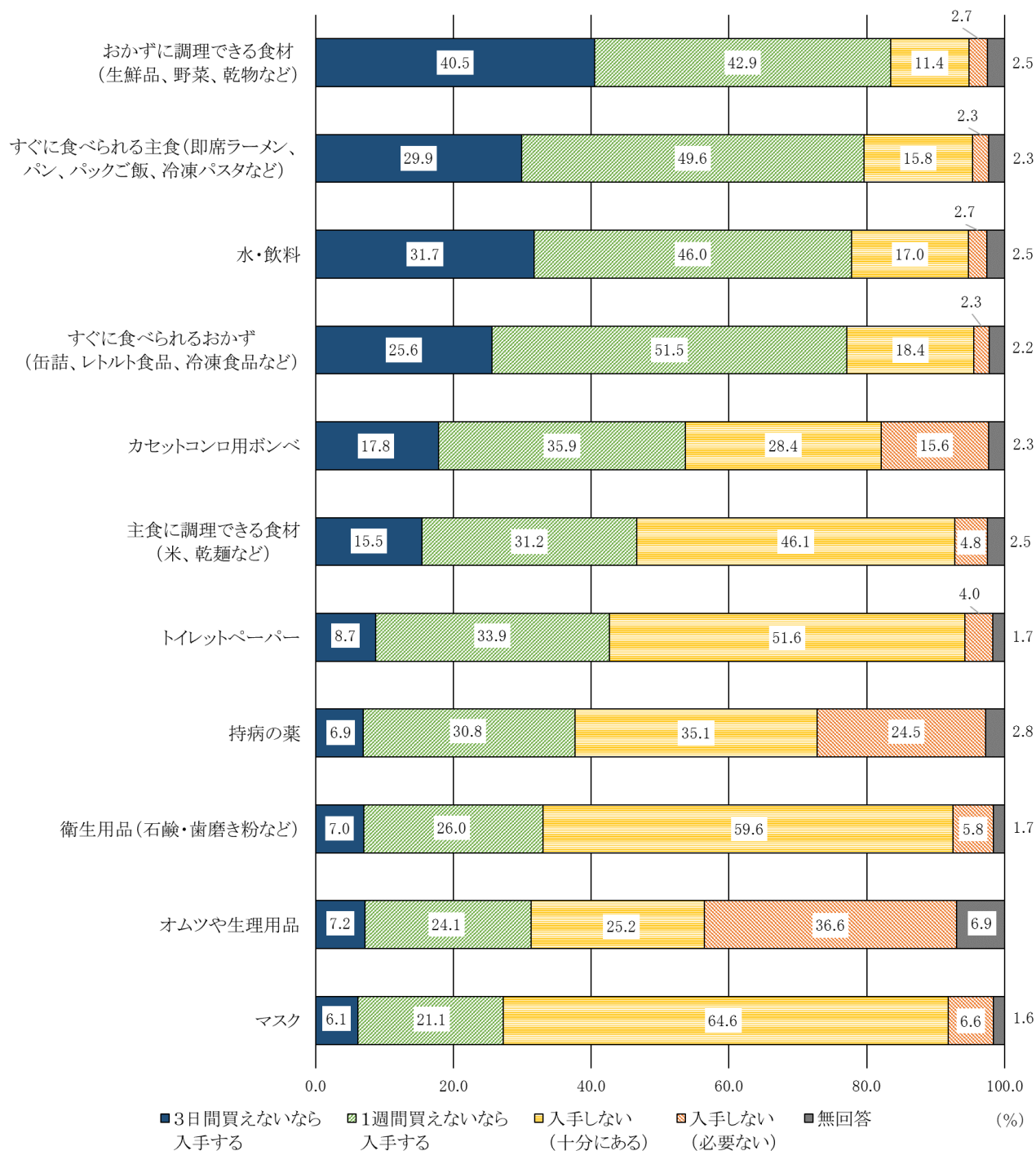
この3か月のご家庭での行動について、「当てはまる(『当てはまる』+『やや当てはまる』)」と回答した人の割合が高い順に見ると、「マスクの置き場所を決めた」が 62.9%(36.7%+26.2%)と最も高く、次いで、「備蓄分のトイレトーパーを買い置きした」が 49.6%(24.2%+25.4%)、「備蓄品の消費期限や賞味期限を確認した」が 41.9%(13.3%+28.6%)であった(図Ⅱ-15)。



図Ⅱ-15 ご家庭での行動【N=6,948】

問 16 災害や感染症で、明日からしばらく買い物できない(生協も利用できない)場面を想像してください。今日1日だけ買い物ができるとしたら、あなたのご家庭のために、以下の品を入手しますか(それぞれ1つに○)。

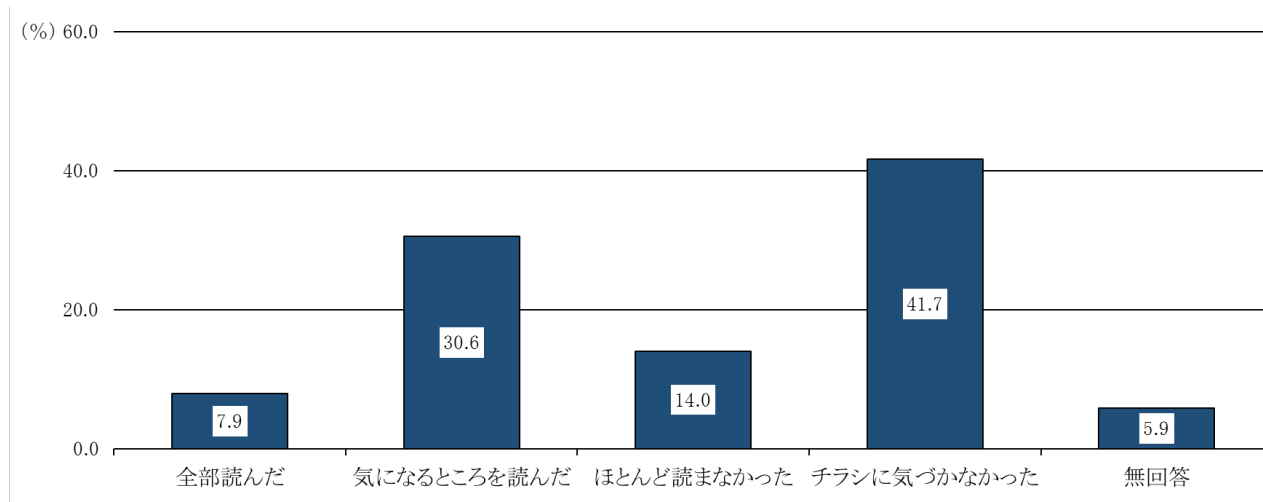
しばらく買物ができない状況での買物について、「入手する(『3日間買えないなら入手する』+『1週間買えないなら入手する』)」と回答した人の割合が高い順に見ると、「おかずに調理できる食材(生鮮品、野菜、乾物など)」が 83.4%(40.5%+42.9%)と最も高く、次いで、「すぐに食べられる主食(即席ラーメン、パン、パックご飯、冷凍パスタなど)」が 79.6%(29.9%+49.6%)、「水・飲料」が 77.8%(31.7%+46.0%)であった(図Ⅱ-16)。



図Ⅱ-16 しばらく買物ができない状況での買物【N=6,948】

問 17 配布チラシ3回シリーズ「備えあれば憂いなし」を読みましたか(1つに○)。

配布チラシの閲覧状況について、「チラシに気づかなかった」が 41.7%と最も高く、次いで、「気になるところを読んだ」が 30.6%、「ほとんど読まなかった」が 14.0%であった(図Ⅱ-17)。

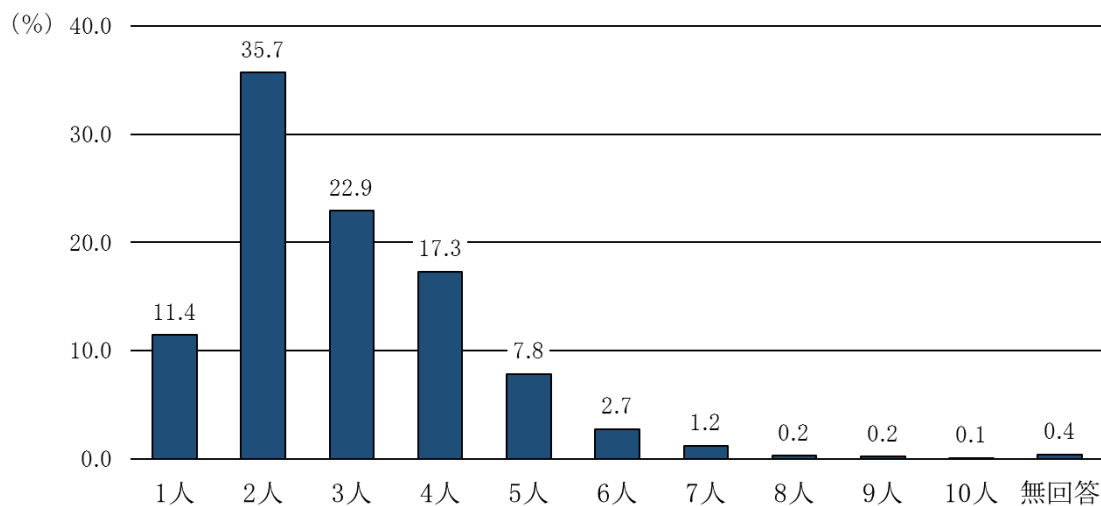


図Ⅱ-17 配布チラシの閲覧状況【N=6,948】

(5) 同居家族について

問 18 同居しているご家族は何人ですか(2021 年7月1日現在)。あなたを含めて全員で

同居人数について、「2人」が 35.7%と最も高く、次いで、「3人」(22.9%)、「4人」(17.3%)であった。なお、平均は 2.90 人であった(図Ⅱ-18)。

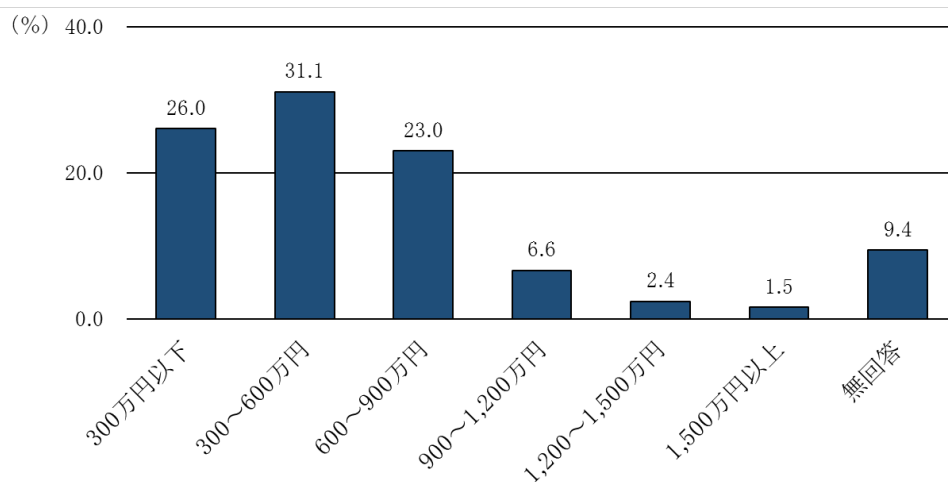


図Ⅱ-18 何人で住んでいるか【N=6,948】

問 19 昨年(2020 年)の世帯全体の年収は、およそいくらですか(○は1つ)。

※年収は、手取りではなく、税金、社会保険料等を差し引く前の金額としてください。

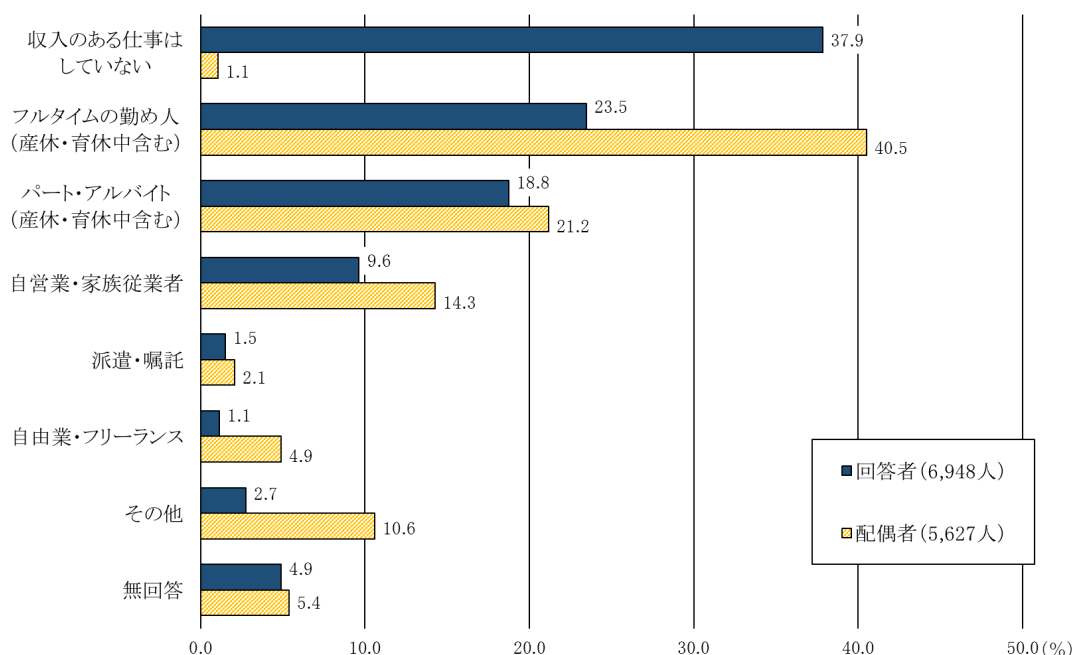
2020 年の世帯年収について、「300～600 万円」が 31.1%と最も高く、次いで、「300 万円以下」(26.0%)、「600～900 万円」(23.0%)であった(図Ⅱ－19)。



図Ⅱ－19 2020 年の世帯年収【N=6,948】

問 20 あなたと配偶者の方について、現在の仕事に当てはまる番号に○をつけてください。配偶者がいらっしゃる場合は、その欄は空欄で結構です(○は1つ)。

回答者および配偶者の職業は、回答者では「収入のある仕事はしていない」が 37.9%と最も高く、次いで、「フルタイムの勤め人(産休・育休中含む)」(23.5%)、「パート・アルバイト(産休・育休中含む)」(18.8%)であった。また、配偶者では「フルタイムの勤め人(産休・育休中含む)」が 40.5%と最も高く、次いで、「パート・アルバイト(産休・育休中含む)」(21.2%)、「自営業・家族従業者」(14.3%)であった(図Ⅱ－20)。



図Ⅱ－20 現在の仕事